

bizhub C3110

ユーザーズガイド スキャン機能編



もくじ

1 スキャン送信機能について

1.1	スキャン送信機能でできること	1-2
1.2	送信のしかた	1-3
1.2.1	送信する（基本的な操作の流れ）	1-3
1.3	宛先の指定	1-5
1.3.1	直接入力する	1-5
1.3.2	登録宛先から選ぶ	1-5
	よく使う宛先（常用）から選ぶ	1-5
	短縮宛先から選ぶ	1-6
	グループ宛先から選ぶ	1-6
	プログラム宛先から選ぶ	1-7
1.3.3	アドレス帳から選ぶ	1-7
1.3.4	メールアドレスをLDAPサーバーから検索する	1-8
1.3.5	宛先設定を解除する	1-8
1.4	スキャン送信のオプション設定	1-9
1.4.1	ファイル形式や原稿サイズなどの基本的なオプション設定	1-9
	読込んだ原稿データを保存するファイル形式を設定する（[ファイル形式]）	1-9
	読込む原稿のサイズを設定する（[読み込みサイズ]）	1-9
	原稿データを保存するときのページ設定をする（[読み込み設定]）	1-9
	原稿を読込むカラーモードを選ぶ（[スタートキーの設定]）	1-10
1.4.2	画質／濃度の調整	1-11
	原稿の内容に適した画質を選ぶ（[原稿種類]）	1-11
	原稿を読込む解像度を設定する（[解像度]）	1-11
	原稿を読込む濃度を調整する（[濃度]）	1-11
	読込む原稿の下地の濃度を調整する（[下地調整]）	1-11
	文字などの境界をくっきりさせる（[シャープネス]）	1-12
1.4.3	原稿の読み込み方法の設定	1-12
	原稿の両面を読込む（[片面 / 両面]）	1-12
	大量の原稿を数回に分けて読込む（[連続読み込み]）	1-12
1.4.4	その他のオプション設定	1-13
	発信元のメールアドレスを変更する（[From]）	1-13
	E-mailの件名を変更する（[件名]）	1-13
	E-mailの本文を変更する（[本文]）	1-13
	原稿データの保存先をE-mailで知らせる（[URL通知]）	1-13

2 E-mailに添付して送信する（E-mail送信）

2.1	E-mail送信機能について	2-2
2.2	E-mail送信の準備（管理者向け）	2-3
2.2.1	準備の流れ	2-3
2.2.2	お使いになるために必要な作業	2-4
	LANケーブルの接続を確認する	2-4
	ネットワークの設定を確認する	2-4
	E-mail送信の使用環境を設定する	2-4
2.2.3	必要に応じて行う作業	2-4
	よく送信する宛先を登録する	2-4
	宛先の指定にLDAPサーバーを使う	2-4
	送信するE-mailの件名と本文を登録する	2-5
	SMTP認証を使う	2-5
	POP before SMTP認証を使う	2-5
	SSL/TLSで通信する	2-5
2.3	送信のしかた	2-6



3 コンピューターの共有フォルダーに送信する (SMB 送信)

3.1	SMB 送信機能について	3-2
3.2	SMB 送信の準備	3-3
3.2.1	準備の流れ	3-3
3.2.2	コンピューター側：お使いになるために必要な作業	3-4
	Windows 7/8/8.1 をお使いの場合	3-4
	Windows Vista をお使いの場合	3-7
	Windows XP をお使いの場合	3-10
	Mac OS X 10.5/10.6/10.7/10.8/10.9 をお使いの場合	3-13
3.2.3	本機側：お使いになるために必要な作業（管理者向け）	3-16
	LAN ケーブルの接続を確認する	3-16
	ネットワークの設定を確認する	3-16
	SMB 送信の使用環境を設定する	3-16
	宛先を登録する	3-16
3.2.4	必要に応じて行う作業	3-17
	WINS サーバーを使う	3-17
	ダイレクトホスティング SMB サービスを使う	3-17
	LLMNR を使う	3-17
	DFS 環境で使う	3-17
3.3	送信のしかた	3-18
3.4	応用機能の紹介	3-19
3.4.1	原稿データの保存先を E-mail で知らせる (URL 通知)	3-19
	URL 通知について	3-19
	お使いになるために必要な作業（管理者向け）	3-19
	操作の流れ	3-19

4 FTP サーバーに送信する (FTP 送信)

4.1	FTP 送信機能について	4-2
4.2	FTP 送信の準備（管理者向け）	4-3
4.2.1	準備の流れ	4-3
4.2.2	お使いになるために必要な作業	4-4
	LAN ケーブルの接続を確認する	4-4
	ネットワークの設定を確認する	4-4
	FTP 送信の使用環境を確認する	4-4
	宛先を登録する	4-4
4.2.3	必要に応じて行う作業	4-4
	プロキシサーバーを使う	4-4
4.3	送信のしかた	4-5
4.4	応用機能の紹介	4-6
4.4.1	原稿データの保存先を E-mail で知らせる (URL 通知)	4-6
	URL 通知について	4-6
	お使いになるために必要な作業（管理者向け）	4-6
	操作の流れ	4-6

5 本機のハードディスクに保存する (HDD 保存)

5.1	HDD 保存機能について	5-2
5.2	保存のしかた	5-3
5.3	ハードディスクに保存したファイルを活用する	5-4
5.3.1	ハードディスクに保存したファイルをダウンロードする	5-4
5.4	応用機能の紹介	5-5
5.4.1	原稿データの保存先を E-mail で知らせる (URL 通知)	5-5
	URL 通知について	5-5
	お使いになるために必要な作業（管理者向け）	5-5
	操作の流れ	5-5



6	USB メモリーに保存する (USB 保存)	
6.1	USB メモリー保存機能について	6-2
6.2	USB メモリー保存の準備	6-2
6.3	保存のしかた	6-3
7	Web サービスで送信する (WS スキャン)	
7.1	WS スキャン機能について	7-2
7.2	WS スキャンの準備	7-3
7.2.1	準備の流れ	7-3
7.2.2	本機側：お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	7-4
	LAN ケーブルの接続を確認する	7-4
	ネットワークの設定を確認する	7-4
	WS スキャン送信の使用環境を設定する	7-4
7.2.3	コンピューター側：お使いになるために必要な作業	7-5
7.2.4	本機側：必要に応じて行う作業 (管理者向け)	7-6
	SSL で通信する	7-6
7.3	スキャン送信のしかた	7-7
7.4	コンピューターから取込む	7-8
8	TWAIN/WIA スキャンで画像を取込む	
8.1	TWAIN/WIA スキャン機能について	8-2
8.2	TWAIN/WIA スキャンの準備	8-3
8.2.1	本機側：お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	8-3
	LAN ケーブルの接続を確認する	8-3
	ネットワークの設定を確認する	8-3
8.2.2	コンピューター側：お使いになるために必要な作業	8-3
	コンピューターの動作環境	8-3
	スキャナードライバーのインストール (Windows 環境の場合)	8-4
	スキャナードライバーのインストール (Mac OS 環境の場合)	8-4
	ネットワークキューティリティーの設定	8-5
8.3	TWAIN スキャンのしかた	8-6
8.4	WIA スキャンのしかた	8-8
8.5	スキャナードライバーのアンインストール	8-9
	Windows 環境の場合	8-9
	Mac OS 環境の場合	8-9
9	よく使う宛先を登録する (短縮宛先)	
	短縮宛先について	9-2
	E-mail 宛先を登録する	9-2
10	索引	

1

スキャン送信機能について

1 スキャン送信機能について

1.1 スキャン送信機能でできること

本機で読込んだ原稿データは、コンピューターやサーバーへ送信したり、本機のハードディスクに保存したりできます。

スキャン送信機能を使うには、あらかじめ設定が必要な場合があります。詳しくは、各機能の説明をごらんください。

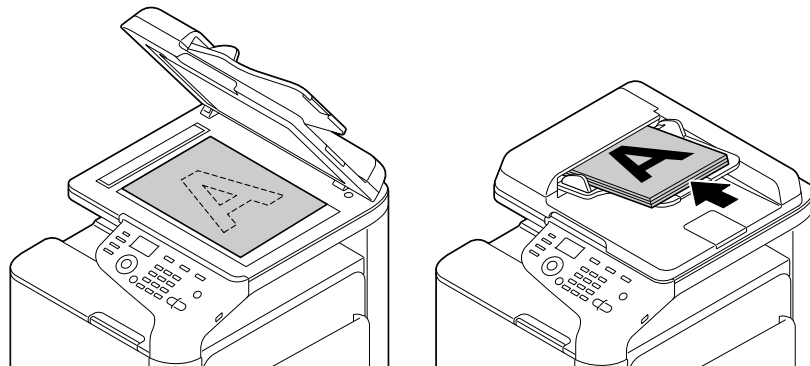
スキャン送信機能には、次の種類があります。

機能	説明
E-mail 送信	変換したファイルを E-mail に添付して、任意のメールアドレスに送信します。
SMB 送信	変換したファイルをコンピューターの共有フォルダーへ送信します。送信先を自分のコンピューターやファイルサーバーなどにして使います。
FTP 送信	変換したファイルを FTP サーバーへ送信します。FTP サーバーを通じてファイルの受渡しをするときに便利です。
HDD 保存	本機で読込んだ原稿データを本機内蔵のハードディスクに保存します。ハードディスクに保存した原稿データは、コンピューターで Web ブラウザーを使ってダウンロードできます。 目 ひとこと オプションのハードディスクを装着している場合に利用できます。
USB メモリー保存	本機で読込んだ原稿データを本機に接続した USB メモリーに保存します。
WS スキャン	面倒な環境設定をすることなく、コンピューターからスキャンの指示をして原稿データを取込んだり、本機でスキャンした原稿データをコンピューターに送信したりできます。 Vista 以降の Windows コンピューターで対応しています。
TWAIN/WIA スキャン	ネットワーク上のコンピューターから、TWAIN/WIA に対応した各種アプリケーションを通じて、本機で読込んだ原稿データをファイルに変換して取込みます。

1.2 送信のしかた

1.2.1 送信する（基本的な操作の流れ）

- 1 原稿をセットします。



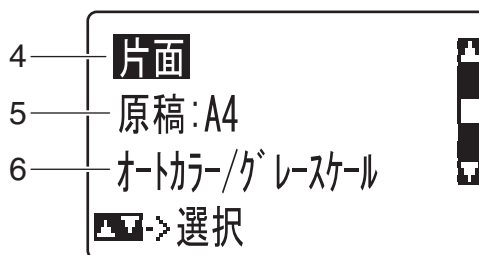
- 2 スキャンを押します。

- 3 宛先を指定します。

→ 宛先の指定のしかたについて詳しくは、1-5 ページをごらんください。

- 4 スキャン送信のオプション設定をします。

→ メイン画面（スキャンモード）で、▲/▼を押して、変更する設定を選びます。スキャンの設定については、以下の各項目をごらんください。





No.	設定	目的
1	[ファイル形式]	読込んだ原稿データを保存するファイル形式を選びます。詳しくは、1-9 ページをごらんください。
2	[原稿画質]	原稿の画質（[原稿種類]、[解像度]、[濃度]、[下地調整]、[シャープネス]）を調整して読み込みます。詳しくは、1-11 ページをごらんください。
3	[Scan to]	HDD 保存、USB メモリー保存、WS スキャンの保存先を指定します。
4	[片面 / 両面]	原稿を読み込む面を選びます。詳しくは、1-12 ページをごらんください。
5	[読み込みサイズ]	読み込む原稿のサイズを選びます。 本機で原稿を読み込む前に、読み込む原稿のサイズを設定する必要があります。原稿サイズを正しく設定しないと、画像が欠ける場合があります。原稿サイズの設定については、1-9 ページをごらんください。
6	[スタートキーの設定]	スタート（カラー）およびスタート（モノクロ）のカラーモードを変更します。詳しくは、1-10 ページをごらんください。
7	[連続読み]	原稿の枚数が多く、1 度のセットで ADF に載せきれない場合でも、原稿を数回に分けて読んで、1 つのジョブとして扱えます。詳しくは、1-12 ページをごらんください。
8	[読み込み設定]	原稿が複数ページあるときに、ファイルにするページ単位を選びます。詳しくは、1-9 ページをごらんください。
9	[From]	発信元のメールアドレスを変更します。詳しくは、1-13 ページをごらんください。
10	[件名]	E-mail の件名を変更します。詳しくは、1-13 ページをごらんください。
11	[本文]	E-mail の本文を変更します。詳しくは、1-13 ページをごらんください。
12	[URL 通知]	SMB 送信、FTP 送信、HDD 保存の終了後に、原稿データの保存先を記載した E-mail を、指定のメールアドレスに送ります。詳しくは、1-13 ページをごらんください。

5 スタートを押します。

- カラーで読み込む場合は、スタート（カラー）を押します。モノクロで読み込む場合は、スタート（モノクロ）を押します。
 - 原稿の読み込み中にストップ/リセットを押すと、読み込みが停止され、ジョブをキャンセルするかどうかの確認画面が表示されます。送信を中止したい場合は、ジョブのキャンセルを行ってください。
- 送信が開始されます。

関連設定

お使いの環境に合わせて、スキャン送信のオプション設定の初期値を変更できます。
設定するには：[設定メニュー] - [ユーザー設定] - [ファクス/スキャン設定] - [スキャン初期設定]

1.3 宛先の指定



参照

HDD 保存について詳しくは、5-2 ページをごらんください。

USB メモリー保存について詳しくは、6-2 ページをごらんください。

WS スキャンについて詳しくは、7-2 ページをごらんください。

1.3.1 直接入力する

宛先とするメールアドレスを入力します。

✓ SMB 宛先、FTP 宛先は、直接入力では指定できません。

1 メイン画面（スキャンモード）が表示されているときに、宛先とするメールアドレスをテンキーで入力します。

→ 文字入力のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド はじめにお読みください] の 7 章「操作パネルについて」をごらんください。

2 選択を押し、宛先を確定します。

3 [終了] を選び、選択を押しします。

→ [追加] を選ぶと、E-mail 宛先を追加できます。

→ [確認 / 編集] を選ぶと、選択した E-mail 宛先の情報を確認できます。



参考

直接入力した宛先を編集したい場合は、メイン画面（スキャンモード）で、設定済みの宛先を選び、表示されたメニューから [確認 / 編集] を選びます。

1.3.2 登録宛先から選ぶ

よく使う宛先（常用）から選ぶ

本機に登録されている宛先を選びます。[常用] には、宛先登録時に、よく使う宛先（常用）に設定した宛先が表示されます。

✓ 短縮宛先の登録のしかたについて詳しくは、9-2 ページをごらんください。

1 メイン画面（スキャンモード）または [アドレス帳が使えます] が表示されているときに、登録宛先を押しします。

常用に登録されている宛先の一覧が表示されます。

2 目的の宛先を選び、選択を押しします。

3 選択を押し、宛先を確定します。

4 E-mail 宛先を選択した場合は、[終了] を選び、選択を押しします。

→ [追加] を選ぶと E-mail 宛先を追加できます。

→ [確認 / 編集] を選ぶと、選択した E-mail 宛先の情報を確認できます。

短縮宛先から選ぶ

本機に登録されている短縮宛先を選びます。

- ✓ 短縮宛先は、250 件まで登録できます。
- ✓ 短縮宛先の登録のしかたについて詳しくは、9-2 ページをごらんください。

- 1 メイン画面（スキャンモード）または［アドレス帳が使えます］が表示されているときに、**登録宛先**を2度押します。
短縮ダイヤル番号の入力画面が表示されます。
- 2 目的の短縮ダイヤル番号（1～250）を**テンキー**で入力し、**選択**を押します。
選択した短縮宛先の名前が表示されます。
- 3 **選択**を押し、宛先を確定します。
- 4 E-mail 宛先を選択した場合は、［終了］を選び、**選択**を押します。
 - ［追加］を選ぶと、E-mail 宛先を追加できます。
 - ［確認 / 編集］を選ぶと、選択した E-mail 宛先の情報を確認できます。

グループ宛先から選ぶ

本機に登録されているグループ宛先を選びます。

グループ宛先は、複数の短縮宛先をまとめて、ひとつのグループ宛先として管理できます。

- ✓ グループ宛先は、20 件まで登録できます（グループ1件あたり最大50宛先まで登録可能）。
- ✓ グループ宛先は、**Web Connection**でのみ登録できます。登録のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編]の2章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。
- ✓ スキャンモードでは、ファクス宛先が登録されているグループ宛先を選択することはできません。

- 1 メイン画面（スキャンモード）または［アドレス帳が使えます］が表示されているときに、**登録宛先**を3度押します。
グループダイヤル番号の入力画面が表示されます。
- 2 目的のグループダイヤル番号（1～20）を**テンキー**で入力し、**選択**を押します。
選択したグループ宛先の名前が表示されます。
- 3 **選択**を押し、宛先を確定します。
- 4 E-mail 宛先のみ登録されているグループ宛先を選択した場合は、［終了］を選び、**選択**を押します。
 - ［追加］を選ぶと、E-mail 宛先を追加できます。
 - ［確認 / 編集］を選ぶと、選択した E-mail 宛先の情報を確認できます。

プログラム宛先から選ぶ

本機に登録されているプログラム宛先を選びます。

プログラムは、よく使うオプション設定の組合わせと宛先情報を、1つの呼出しキーとして登録する機能です。

- ✓ プログラム宛先は、50 件まで登録できます。
- ✓ プログラム宛先は、**Web Connection** でのみ登録できます。登録のしかたについては、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。
- ✓ スキャンモードでは、ファクス宛先が登録されているプログラム宛先を選択することはできません。

1 メイン画面（スキャンモード）または [アドレス帳が使えます] が表示されているときに、登録宛先を 4 度押します。

プログラムの登録番号の入力画面が表示されます。

2 目的のプログラム宛先の登録番号（1～50）をテンキーで入力し、**選択**を押します。

選択したプログラム宛先の名前が表示されます。

3 **選択**を押し、宛先を確定します。

1.3.3 アドレス帳から選ぶ

本機に登録されている短縮宛先の一覧から目的の宛先を選びます。

- ✓ 短縮宛先を登録していない場合、この機能は使用できません。
- ✓ 短縮宛先の登録のしかたについて詳しくは、9-2 ページをごらんください。

1 メイン画面（スキャンモード）または [アドレス帳が使えます] が表示されているときに、登録宛先を 5 度押します。

2 [リスト] を選び、**選択**を押します。

本機に登録されている短縮宛先の一覧が表示されます。

- 検索機能を使用して一覧に表示する宛先を絞込むことができます。検索機能を使用する場合は、[検索] を選び、**選択**を押します。テンキーでキーワードを入力し、**選択**を押します。検索キーワードが文字の途中に含まれている場合は検索対象外となります。

3 目的の宛先を選び、**選択**を押します。

4 **選択**を押し、宛先を確定します。

5 E-mail 宛先を選択した場合は、[終了] を選び、**選択**を押します。

- [追加] を選ぶと E-mail 宛先を追加できます。
- [確認 / 編集] を選ぶと、選択した E-mail 宛先の情報を確認できます。

1.3.4 メールアドレスをLDAPサーバーから検索する

LDAPサーバーやWindows ServerのActive Directoryをお使いの場合は、サーバーからメールアドレスを検索して選べます。

- ✓ あらかじめ本機にサーバーの登録が必要です。登録のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編]の2章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。
- 1 メイン画面（スキャンモード）または「アドレス帳が使えます」が表示されているときに、**登録宛先**を5度押します。
- 2 「LDAP 検索」を選び、**選択**を押します。
- 3 検索対象を「登録名」または「E-mail」から選び、**選択**を押します。
- 4 テンキーでキーワードを入力し、**選択**を押します。
 - 検索キーワードが文字の途中に含まれている場合は検索対象外となります。
 - 文字入力のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド はじめにお読みください]の7章「操作パネルについて」をごらんください。検索が開始され、しばらくすると検索結果が表示されます。
- 5 検索結果から目的の宛先を選び、**選択**を押します。
- 6 **選択**を押し、宛先を確定します。
- 7 「終了」を選び、**選択**を押します。
 - 「追加」を選ぶとE-mail宛先を追加できます。
 - 「確認 / 編集」を選ぶと、選択したE-mail宛先の情報を確認できます。

1.3.5 宛先設定を解除する

- 1 メイン画面（スキャンモード）で、設定済みの宛先を選び、**選択**を押します。
- 2 E-mail宛先を解除する場合は、「確認 / 編集」を選び、**選択**を押します。
 - FTP宛先、SMB宛先を解除する場合は、手順3へ進みます。
- 3 設定を解除したい宛先を選び、**選択**を押します。
- 4 **ストップ / リセット**を押します。
- 5 「はい」を選び、**選択**を押します。
- 6 宛先設定の解除が完了したら、**戻る**を押します。

1.4 スキャン送信のオプション設定

1.4.1 ファイル形式や原稿サイズなどの基本的なオプション設定

読込んだ原稿データを保存するファイル形式を設定する（〔ファイル形式〕）

読込んだ原稿データを保存するファイル形式を選びます。

- 1 メイン画面（スキャンモード）で ▲/▼ を押して、〔ファイル形式〕の現在の設定を選び、**選択**を押します。
- 2 読込んだ原稿データを保存するファイル形式を選び、**選択**を押します。

設定	説明
[TIFF]	汎用度の高い画像形式の1つです。TIFFは、1つのファイルに複数ページを 持てるマルチページに対応しています。
[JPEG]	デジタルカメラでよく使われているファイルの保存形式で、写真の保存に適 したファイル形式です。JPEGは、1つのファイルに複数ページを保存でき ません。
[PDF]	ほとんどのOSで表示できるフォーマットです。
[CPDF]	通常のPDF形式よりも小さなファイルサイズで保存します。E-mail送信な ど、ファイルサイズを小さくしたいときなどにおすすめです。
[XPS]	Windows Vistaから採用されたファイル形式です。

読込む原稿のサイズを設定する（〔読み込みサイズ〕）

読込む原稿のサイズを選びます。

- 1 メイン画面（スキャンモード）で ▲/▼ を押して、〔読み込みサイズ〕の現在の設定を選び、**選択**を押
します。
- 2 読込む原稿のサイズを選び、**選択**を押します。

設定	説明
[定形サイズ]	A系・B系サイズ、インチ系サイズなど、決まったサイズの原稿を読み込む ときに、原稿サイズを選びます。
[不定形サイズ]	不定形サイズの原稿を読み込むときに選びます。縦、横それぞれの数値を入力 します。

原稿データを保存するときのページ設定をする（〔読み込み設定〕）

原稿が複数ページあるときに、ファイルにするページ単位を選びます。

- 1 メイン画面（スキャンモード）で ▲/▼ を押して、〔読み込み設定〕の現在の設定を選び、**選択**を押しま
す。
- 2 ファイルにするページ単位を選び、**選択**を押します。

設定	説明
[一枚毎]	すべてのページを1つのファイルに変換します。
[ページ一括]	1ページごとにファイルを分割して送信する形式にできます。 〔ファイル形式〕で〔JPEG〕を選んだ場合、〔ページ一括〕は無効です。

原稿を読み込むカラーモードを選ぶ（[スタートキーの設定]）

スタートに割り当てるカラーモードを変更します。

- 1 メイン画面（スキャンモード）で ▲/▼ を押して、[スタートキーの設定] の現在の設定を選び、**選択** を押します。
- 2 スタートに割り当てるカラーモードを選び、**選択** を押します。

設定	説明
[オートカラー / グレースケール]	スタートのカラーモードを変更します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ スタート（カラー）：原稿の色に合わせて、自動的にフルカラーまたはグレースケールを選んで読み込みます。 ・ スタート（モノクロ）：原稿の色に関わらず、グレースケールで読み込みます。
[オートカラー / 白黒2値]	スタートのカラーモードを変更します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ スタート（カラー）：原稿の色に合わせて、自動的にフルカラーまたはグレースケールを選んで読み込みます。 ・ スタート（モノクロ）：原稿を、白と黒の中間色を使わずに、白か黒かで読み込みます。
[フルカラー / グレースケール]	スタートのカラーモードを変更します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ スタート（カラー）：原稿の色に関わらず、フルカラーで読み込みます。 ・ スタート（モノクロ）：原稿の色に関わらず、グレースケールで読み込みます。
[フルカラー / 白黒2値]	スタートのカラーモードを変更します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ スタート（カラー）：原稿の色に関わらず、フルカラーで読み込みます。 ・ スタート（モノクロ）：原稿を、白と黒の中間色を使わずに、白か黒かで読み込みます。

1.4.2 画質／濃度の調整

原稿の内容に適した画質を選ぶ（〔原稿種類〕）

原稿の記載内容に適した設定を選び、最適な画質で読みます。

- 1 メイン画面（スキャンモード）で ▲/▼ を押して、〔原稿画質〕の現在の設定を選び、**選択**を押します。
- 2 〔原稿種類〕を選び、**選択**を押します。
- 3 原稿の記載内容に適した設定を選び、**選択**を押します。

設定	説明
〔文 / 写〕	文字と写真とで構成された原稿を、最適な画質で読みます。 文字のエッジはシャープに再現して、写真は滑らかに再現します。
〔文字〕	文字が多い原稿を、最適な画質で読みます。 文字のエッジをシャープに再現して、読みやすい画像にします。
〔写真〕	写真だけで構成された原稿を、最適な画質で読みます。

原稿を読み込む解像度を設定する（〔解像度〕）

原稿を読み込むときの解像度を選びます。

- 1 メイン画面（スキャンモード）で ▲/▼ を押して、〔原稿画質〕の現在の設定を選び、**選択**を押します。
- 2 〔解像度〕を選び、**選択**を押します。
- 3 原稿を読み込むときの解像度を選び、**選択**を押します。
→ 〔400 × 400 dpi〕、〔600 × 600 dpi〕は、オプションのハードディスクを装着している場合に利用できます。



参考

より精細に読み込むほど送信する情報量が増え、送信時間が長くなります。送信手段に E-mail を使うときは、データ容量に制限がないかをご確認ください。

原稿を読み込む濃度を調整する（〔濃度〕）

原稿に合わせて濃度を調整して読みます。

- 1 メイン画面（スキャンモード）で ▲/▼ を押して、〔原稿画質〕の現在の設定を選び、**選択**を押します。
- 2 〔濃度〕を選び、**選択**を押します。
- 3 ◀/▶ を押して、画像の濃淡を調整します。

読み込む原稿の下地の濃度を調整する（〔下地調整〕）

新聞紙や再生紙でできた原稿など、下地に色が付いている原稿の下地の濃度を調整します。

- 1 メイン画面（スキャンモード）で ▲/▼ を押して、〔原稿画質〕の現在の設定を選び、**選択**を押します。
- 2 〔下地調整〕を選び、**選択**を押します。
- 3 ◀/▶ を押して、下地の濃度を調整します。

文字などの境界をくっきりさせる（[シャープネス]）

画像のエッジ部分を強調して、読みやすくします。画像の、ガタガタした輪郭を滑らかにしたり、ぼやけた輪郭をくっきりさせたりします。

- 1 メイン画面（スキャンモード）で ▲/▼ を押して、[原稿画質] の現在の設定を選び、**選択**を押します。
- 2 [シャープネス] を選び、**選択**を押します。
- 3 ◀/▶ を押して、画像のエッジ部分を強調する度合いを調整します。

1.4.3 原稿の読み込み方法の設定

原稿の両面を読み込む（[片面 / 両面]）

原稿を読み込む面を選びます。

- 1 メイン画面（スキャンモード）で ▲/▼ を押して、[片面 / 両面] の現在の設定を選び、**選択**を押します。
- 2 原稿を読み込む面を選び、**選択**を押します。

設定	説明
[片面]	原稿の片面を読み込みます。
[両面]	原稿の両面を読み込みます。

- 3 手順 2 で [両面] を選んだ場合は、原稿のとじしろを選び、**選択**を押します。

設定	説明
[長辺とじ]	原稿の左側にとじしろがあるときに選びます。
[短辺とじ]	原稿の上側にとじしろがあるときに選びます。

大量の原稿を数回に分けて読み込む（[連続読み]）

原稿の枚数が多く、1 度のセットで ADF に載せきれない場合でも、原稿を数回に分けて読んで、1 つのジョブとして扱えます。

[連続読み] は、ADF と原稿ガラスとを交互に使い分けて、原稿を読み込むこともできます。

- ✓ オプションのハードディスクを装着している場合に利用できます。

- 1 原稿をセットします。

重要

原稿給紙トレイに 1 度にセットする原稿は 50 枚以内とし、なおかつ ▼ マークを超えてセットしないでください。原稿づまりや原稿の破損、ADF の故障の原因になります。

- 2 メイン画面（スキャンモード）で ▲/▼ を押して、[連続読み] を選び、**選択**を押します。
- 3 [ON] を選び、**選択**を押します。
- 4 **スタート**を押します。
原稿が読み込まれます。
- 5 次の原稿をセットして、**スタート**を押します。
→ 必要に応じて [設定変更] を選び、新しく読み込む原稿に合わせて、オプション設定を変更します。
- 6 すべての原稿を読み込むまで、手順 5 の操作を続けます。
- 7 すべての原稿を読み込み終わったら [送信] を選び、**選択**を押します。

1.4.4 その他のオプション設定

発信元のメールアドレスを変更する（[From]）

- 1 メイン画面（スキャンモード）で ▲/▼ を押して、[From] を選び、**選択**を押します。
- 2 テンキーで発信元のメールアドレスを入力し（320 文字以内）、**選択**を押します。
 - 文字入力のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド はじめにお読みください] の 7 章「操作パネルについて」をごらんください。
 - 入力内容を修正する場合は、**戻る**を押します。

E-mail の件名を変更する（[件名]）

- 1 メイン画面（スキャンモード）で ▲/▼ を押して、[件名] を選び、**選択**を押します。
- 2 テンキーで件名を入力し（64 文字以内）、**選択**を押します。
 - E-mail の件名の初期値は、「From（本機のモデル名）」です。
 - 文字入力のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド はじめにお読みください] の 7 章「操作パネルについて」をごらんください。
 - 入力内容を修正する場合は、**戻る**を押します。

関連設定

E-mail の件名の初期値は、**Web Connection** で登録および変更できます。詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 1 章「Web Connection を使う」をごらんください。

E-mail の本文を変更する（[本文]）

- 1 メイン画面（スキャンモード）で ▲/▼ を押して、[本文] を選び、**選択**を押します。
- 2 テンキーで本文を入力し（256 文字以内）、**選択**を押します。
 - E-mail の本文の初期値は、空欄です。
 - 文字入力のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド はじめにお読みください] の 7 章「操作パネルについて」をごらんください。
 - 入力内容を修正する場合は、**戻る**を押します。

関連設定

E-mail の本文の初期値は、**Web Connection** で登録および変更できます。詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 1 章「Web Connection を使う」をごらんください。

原稿データの保存先を E-mail で知らせる（[URL 通知]）

SMB 送信、FTP 送信、HDD 保存の終了後に、原稿データの保存先を記載した E-mail を、指定のメールアドレスに送ります。詳しくは、3-19 ページをごらんください。

2

E-mail に添付して送信する
(E-mail 送信)

2 E-mail に添付して送信する (E-mail 送信)

2.1 E-mail 送信機能について

E-mail 送信は、本機で読込んだ原稿データを、コンピューターで扱えるファイルに変換して、E-mail の添付ファイルとして任意のメールアドレスに送信する機能です。

普段、E-mail を使うような操作でファイルを送信できるため、操作も手軽で、導入も容易です。

LDAP サーバーや Windows Server の Active Directory でユーザーを管理している場合は、サーバーからメールアドレスを検索することもできます。

2.2 E-mail 送信の準備（管理者向け）

2.2.1 準備の流れ

本機をネットワークに接続する

- LAN ケーブルの接続を確認する
- ネットワーク設定を確認する
 - 本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。



E-mail 環境を準備する

- E-mail 送信機能を有効にする
- メールサーバー（SMTP）を登録する
- 本体のメールアドレスを登録する
 - 送信元のアドレス（From アドレス）になります。



お使いの環境に合わせて設定する

- よく送信するメールアドレスを登録する
 - 送信のたびに宛先入力する手間を省けます。
- 宛先の指定に LDAP サーバーを使う
 - LDAP サーバーや Active Directory をお使いの場合に、サーバーで宛先検索ができます。
- 送信する E-mail の件名と本文を登録する
 - E-mail の件名と本文を定型として登録しておけば、送信時に選べます。
- SMTP 認証を使う
 - 本機は SMTP 認証に対応しています。お使いの環境で SMTP 認証を導入している場合に設定します。
- POP before SMTP 認証を使う
 - 本機は POP before SMTP 認証に対応しています。お使いの環境で POP before SMTP 認証を導入している場合に設定します。
- SSL/TLS で通信する
 - 本機は SMTP over SSL と Start TLS に対応しています。お使いの環境でメールサーバーとの通信を SSL で暗号化している場合に設定します。



準備完了

2.2.2 お使いになるために必要な作業

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。

ネットワークの設定を確認する

設定情報リストを印刷し、本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。

設定情報リストは、メイン画面の [レポート / ステータス] - [レポート] - [設定情報リスト] から印刷します。



参照

IP アドレスが割当てられていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、[すぐに使える簡単設定ガイド] の 5 章「本機の初期設定」をごらんください。

E-mail 送信の使用環境を設定する

E-mail 送信機能を有効にします。また、E-mail 送信に使うメールサーバーと、本体のメールアドレスを登録します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

2.2.3 必要に応じて行う作業

よく送信する宛先を登録する

よく送信するメールアドレスは、あらかじめ本機に宛先として登録することで、送信のたびに入力する手間が省けます。

登録のしかたについて詳しくは、9-2 ページをごらんください。

宛先の指定に LDAP サーバーを使う

ユーザー管理に LDAP サーバーや Active Directory をお使いの場合は、サーバーを使ってメールアドレスの検索や指定ができます。宛先の指定にサーバーを使う場合は、お使いのサーバーを本機に登録します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。



参照

LDAP サーバーを使った検索のしかたについて詳しくは、1-8 ページをごらんください。

送信する E-mail の件名と本文を登録する

E-mail の件名と本文は、Web Connection で登録できます。登録のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 1 章「Web Connection を使う」をごらんください。

SMTP 認証を使う

本機は SMTP 認証に対応しています。お使いの環境で SMTP 認証を導入している場合に設定します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

POP before SMTP 認証を使う

本機は POP before SMTP 認証に対応しています。お使いの環境で POP before SMTP 認証を導入している場合に設定します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

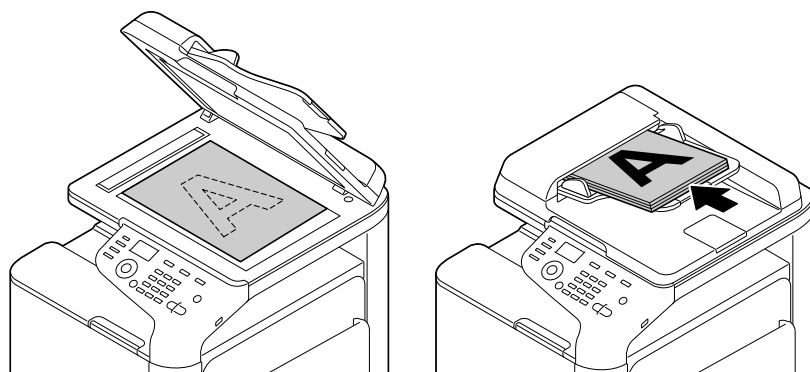
SSL/TLS で通信する

本機は SMTP over SSL と Start TLS に対応しています。お使いの環境でメールサーバーとの通信を SSL で暗号化している場合に設定します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

2.3 送信のしかた

- 1 原稿をセットします。



- 2 スキャンを押します。

- 3 送信先のメールアドレスを指定します。

→ 宛先の指定のしかたについて詳しくは、1-5 ページをごらんください。

- 4 スキャン送信のオプション設定をします。

→ 本機で原稿を読み込む前に、読み込む原稿のサイズを設定する必要があります。原稿サイズを正しく設定しないと、画像が欠ける場合があります。原稿サイズの設定については、1-9 ページをごらんください。

→ オプション設定について詳しくは、以下の各項目をごらんください。

目的	参照先
ファイル形式や原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-9 ページ
原稿の内容に応じて画質や濃度を調整したい	1-11 ページ
原稿の読み込み方法を設定したい	1-12 ページ
E-mail の件名や本文を設定したい	1-13 ページ

- 5 スタートを押します。

→ カラーで読み込む場合は、**スタート (カラー)** を押します。モノクロで読み込む場合は、**スタート (モノクロ)** を押します。

→ 原稿の読み込み中に**ストップ / リセット**を押すと、読み込みが停止され、ジョブをキャンセルするかどうかの確認画面が表示されます。送信を中止したい場合は、ジョブのキャンセルを行ってください。

送信が開始されます。

3

コンピューターの共有フォルダーに送信する (SMB 送信)

3 コンピューターの共有フォルダーに送信する（SMB 送信）

3.1 SMB 送信機能について

SMB 送信は、本機で読込んだ原稿データを、コンピューターで扱えるファイルに変換して、コンピューターやサーバーの共有フォルダーへ送信する機能です。自分のコンピューターはもちろん、普段からファイルの受渡しに使っているファイルサーバーへ送信して共有することもできます。

3.2 SMB 送信の準備

3.2.1 準備の流れ

送信先のコンピューターを準備する

- コンピューター名とユーザー名を確認する
 - 送信先のコンピューター名とアクセスできるユーザー名を確認します。
- 共有フォルダーを作成する
 - 送信先のフォルダーを作成して、共有を開始します。



本機をネットワークに接続する

- LAN ケーブルの接続を確認する
- ネットワーク設定を確認する
 - 本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。



SMB 送信の使用環境を準備する

- SMB 送信機能を有効にする
 - 通常は、初期設定の状態でお使いいただけます。
- 送信する宛先を登録する
 - あらかじめ宛先の登録が必要です。



お使いの環境に合わせて設定する

- WINS サーバーを使う
 - ネットワーク上の機器との通信に WINS (Windows Internet Name Service) をお使いの場合は、WINS サーバーを登録します。
- ダイレクトホスティング SMB サービスを使う
 - ネットワーク上の機器との通信にダイレクトホスティング SMB サービスをお使いの場合は、ダイレクトホスティング SMB サービスを有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。
- LLMNR を使う
 - ネットワーク上の機器との通信に LLMNR (Link-local Multicast Name Resolution) をお使いの場合は、LLMNR を有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。
- DFS を使う
 - お使いの環境で DFS (Distributed File System) を導入している場合に設定します (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。



準備完了

3.2.2 コンピューター側：お使いになるために必要な作業

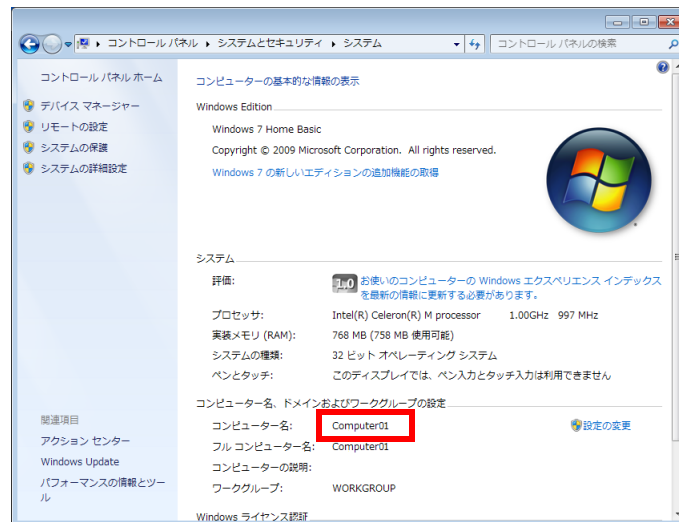
Windows 7/8/8.1 をお使いの場合

本機で読込んだ原稿データを、自分のコンピューターへ送信するための準備をします。

はじめに、コンピューターの名前とログインしているユーザー名を確認します。

✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。

- 1 スタートメニューから [コンピューター] - [システムのプロパティ] をクリックします。
 - Windows 8.1 の場合は、スタート画面で [⓪] をクリックし、[PC] をクリックします。ツールバーから [コンピューター] - [システムのプロパティ] をクリックします。
 - Windows 8 をお使いの場合は、スタート画面を右クリックし、[すべてのアプリ] - [コンピューター] をクリックします。ツールバーから [コンピューター] - [システムのプロパティ] をクリックします。
- 2 [コンピューター名] を確認します。
 - コンピューター名は、宛先の指定で必要です。コンピューター名をメモしておいてください。

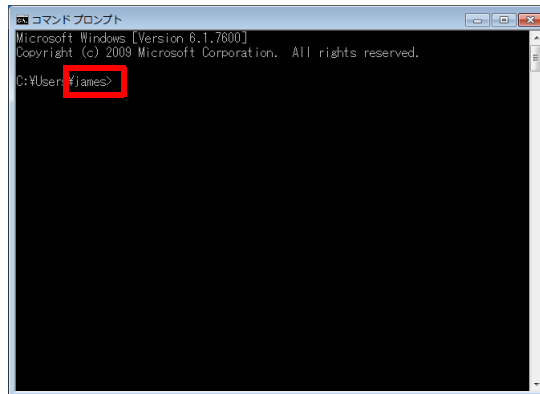


→ ドメインユーザーの場合、ドメイン名は、ユーザー名とともに宛先の指定で必要です。ドメイン名をメモしておいてください。

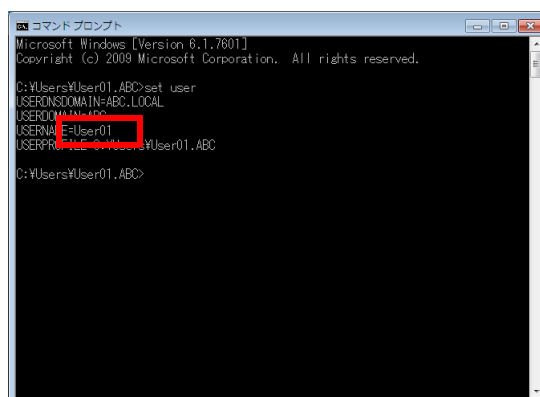


メモしたら、ウィンドウを閉じます。

- 3 スタートメニューから [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト] をクリックします。
 - Windows 8.1 の場合は、スタート画面で [⓪] をクリックし、[コマンドプロンプト] をクリックします。ツールバーから [コンピューター] - [システムのプロパティ] をクリックします。
 - Windows 8 をお使いの場合は、スタート画面を右クリックし、[すべてのアプリ] - [コマンドプロンプト] をクリックします。
- 4 コンピューターにログインしているユーザー名を確認します。
 - ユーザー名は、フォルダーの共有設定と宛先の指定で必要です。ユーザー名をメモしておいてください。



- ドメインユーザーの場合、「set user」を入力し、ユーザー名を確認します。

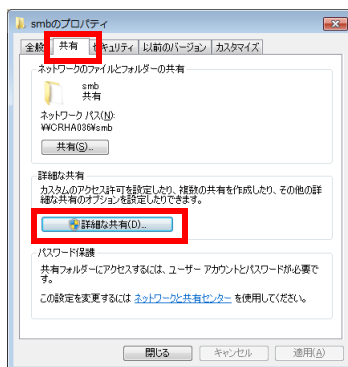


ユーザー名をメモしたら、ウィンドウを閉じます。

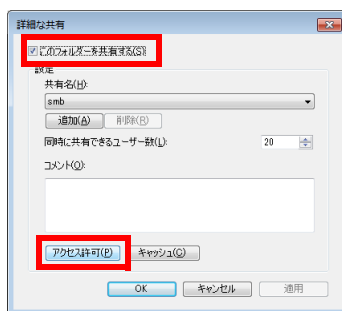
次に、読込んだ原稿データを送信するフォルダーを作成して、共有を開始します。

- 5 スタートメニューから [コントロールパネル] - [ネットワークとインターネット] - [ネットワークと共有センター] - [共有の詳細設定の変更] をクリックします。
 - Windows 8.1 の場合は、スタート画面で [⓪] をクリックし、[コントロールパネル] - [ネットワークと共有センター] - [共有の詳細設定の変更] をクリックします。
 - Windows 8 をお使いの場合は、スタート画面を右クリックし、[すべてのアプリ] - [コントロールパネル] - [ネットワークと共有センター] - [共有の詳細設定の変更] をクリックします。
- 6 [共有の詳細設定] 画面で [ファイルとプリンターの共有を有効にする] をクリックします。 [変更の保存] をクリックして、ウィンドウを閉じます。
- 7 任意の場所に新しいフォルダーを作り、名前を付けます。
 - フォルダー名は、宛先の指定で必要です。フォルダー名はメモしておいてください。
 - フォルダー名は、英数字をお使いください。
- 8 フォルダーを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。

- 9 [共有] タブをクリックして、[詳細な共有] をクリックします。

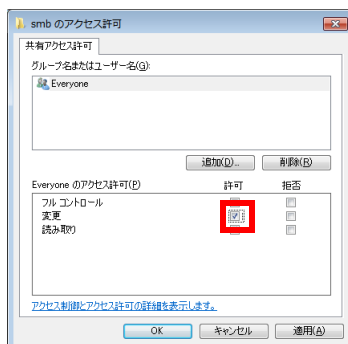


- 10 [このフォルダーを共有する] にチェックをつけて、[アクセス許可] をクリックします。



- 11 [グループ名またはユーザー名] で [Everyone] をクリックします。

- 12 [変更] を許可するチェックをつけて、[OK] をクリックします。



- 13 [OK] や [閉じる] をクリックして、各画面を閉じます。

以上で、コンピューター側の設定の完了です。ここでメモしたコンピューター名、ユーザー名、フォルダー名は、宛先の指定で必要です。

Windows Vista をお使いの場合

本機で読込んだ原稿データを、自分のコンピューターへ送信するための準備をします。

はじめに、コンピューターの名前とログインしているユーザー名を確認します。

✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。

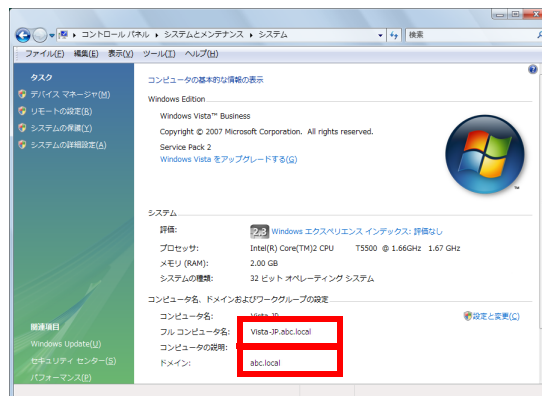
1 スタートメニューから [コンピューター] - [システムのプロパティ] をクリックします。

2 [コンピューター名] を確認します。

→ コンピューター名は、宛先の指定で必要です。コンピューター名をメモしておいてください。



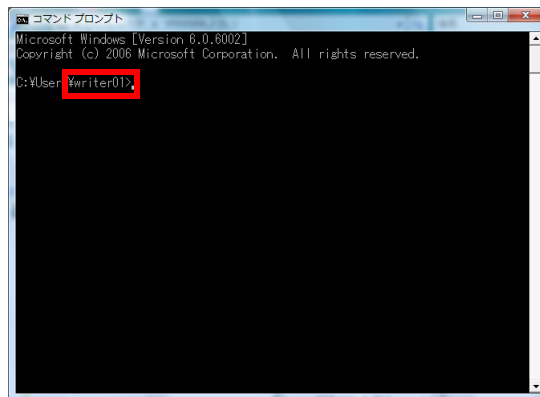
→ ドメインユーザーの場合、ドメイン名は、ユーザー名とともに宛先の指定で必要です。ドメイン名をメモしておいてください。



メモしたら、ウィンドウを閉じます。

3 スタートメニューから [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト] をクリックします。

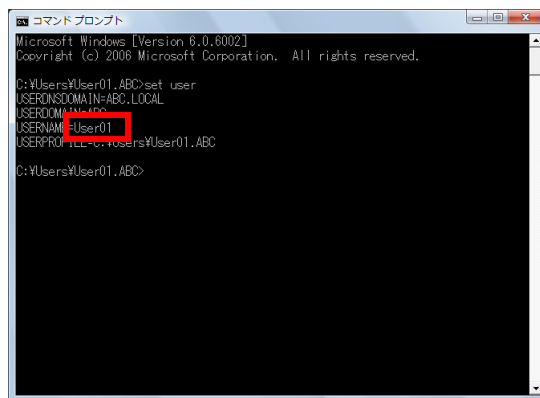
- 4 コンピューターにログインしているユーザー名を確認します。
 - ユーザー名は、フォルダーの共有設定と宛先の指定で必要です。ユーザー名をメモしておいてください。



```
コマンドプロンプト
Microsoft Windows [Version 6.0.6002]
Copyright (c) 2006 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\User\writer01>
```

- ドメインユーザーの場合、「set user」を入力し、ユーザー名を確認します。



```
コマンドプロンプト
Microsoft Windows [Version 6.0.6002]
Copyright (c) 2006 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\User01.ABC>set user
USERDNSDOMAIN=ABC.LOCAL
USERDOMAIN=abc
USERNAM=User01
USERPROFILE=C:\Users\User01.ABC

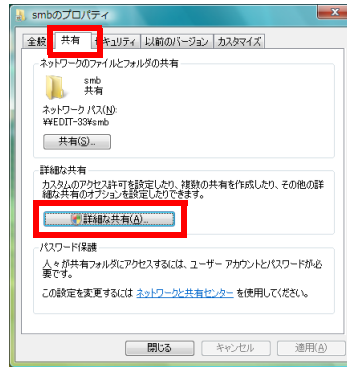
C:\Users\User01.ABC>
```

ユーザー名をメモしたら、ウィンドウを閉じます。

次に、読込んだ原稿データを送信するフォルダーを作成して、共有を開始します。

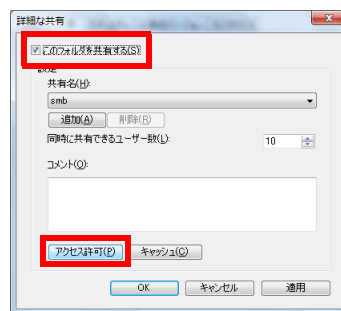
- 5 スタートメニューから [コントロールパネル] - [ネットワークとインターネット] - [ネットワークと共有センター] をクリックします。
- 6 [共有と探索] の [ファイル共有] で、[ファイル共有を有効にする] をクリックします。
[適用] をクリックして、ウィンドウを閉じます。
- 7 任意の場所に新しいフォルダーを作り、名前を付けます。
 - フォルダー名は、宛先の指定で必要です。フォルダー名はメモしておいてください。
 - フォルダー名は、英数字をお使いください。
- 8 フォルダーを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。

- 9 [共有] タブをクリックして、[詳細な共有] をクリックします。



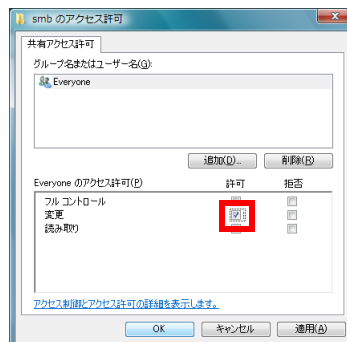
→ ファイル共有の開始を再確認する画面が表示されたときは、[続行] をクリックします。

- 10 [このフォルダを共有する] にチェックをつけて、[アクセス許可] をクリックします。



- 11 [グループ名またはユーザー名] で [Everyone] をクリックします。

- 12 [変更] を許可するチェックをつけて、[OK] をクリックします。



- 13 [OK] や [閉じる] をクリックして、各画面を閉じます。

以上で、コンピューター側の設定の完了です。ここでメモしたコンピューター名、ユーザー名、フォルダー名は、宛先の指定で必要です。

Windows XP をお使いの場合

本機で読込んだ原稿データを、自分のコンピューターへ送信するための準備をします。

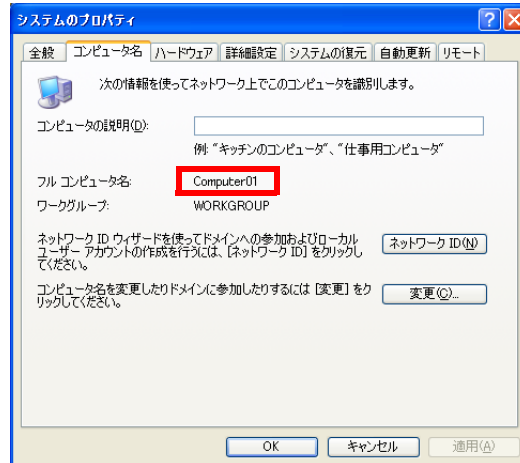
はじめに、コンピューターの名前とログインしているユーザー名を確認します。

✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。

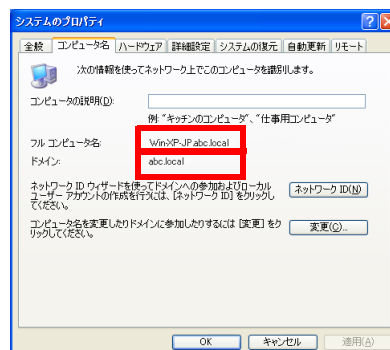
1 スタートメニューから [コンピューター] を右クリックして [プロパティ] をクリックします。

2 [コンピューター名] タブをクリックして、[フル コンピューター名] を確認します。

→ コンピューター名は、宛先の指定で必要です。コンピューター名をメモしておいてください。



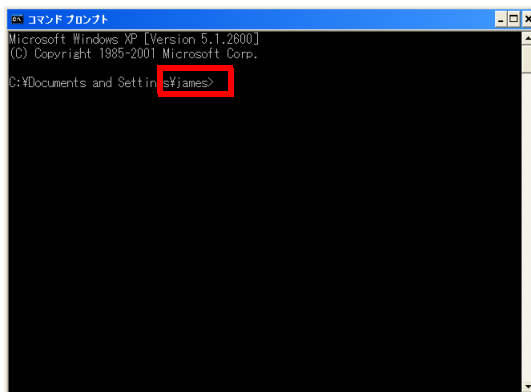
→ ドメインユーザーの場合、ドメイン名は、ユーザー名とともに宛先の指定で必要です。ドメイン名をメモしておいてください。



メモしたら、[キャンセル] をクリックします。

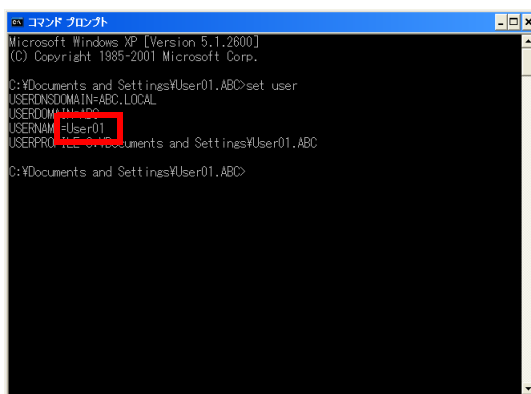
3 スタートメニューから [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンド プロンプト] をクリックします。

- 4 コンピューターにログインしているユーザ名を確認します。
- ユーザー名は、フォルダーの共有設定と宛先の指定で必要です。ユーザー名をメモしておいてください。



```
コマンドプロンプト
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.
C:\Documents and Settings\sfjames>
```

- ドメインユーザーの場合、「set user」を入力し、ユーザー名を確認します。



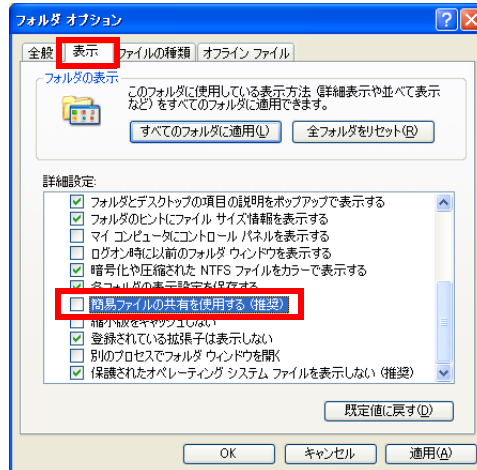
```
コマンドプロンプト
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.
C:\Documents and Settings\User01.ABC>set user
USERDNSDOMAIN=ABC.LOCAL
USERDOMAIN=ABC
USERLOGONSERVER=
USERPROFILE=C:\Documents and Settings\User01.ABC
USERSID=
C:\Documents and Settings\User01.ABC>
```

ユーザー名をメモしたら、ウィンドウを閉じます。

次に、読込んだ原稿データを送信するフォルダーを作成して、共有を開始します。

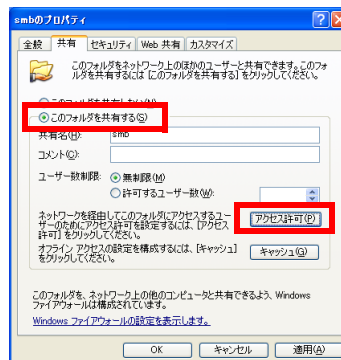
- 5 任意の場所に新しいフォルダーを作り、名前を付けます。
- フォルダー名は、宛先の指定で必要です。フォルダー名はメモしておいてください。
 - フォルダー名は、英数字をお使いください。
- 6 フォルダーをダブルクリックして、[ツール] - [フォルダオプション] を選びます。

- 7 [表示] タブをクリックして、[簡易ファイルの共有を使用する (推奨)] のチェックをはずします。

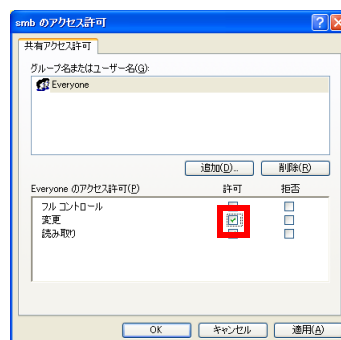


[OK] をクリックして、ウィンドウを閉じます。

- 8 閉じたフォルダーを右クリックして、[共有とセキュリティ] をクリックします。
- 9 [このフォルダを共有する] をクリックして、[アクセス許可] をクリックします。
→ [共有名] は変更しないください。



- 10 [グループ名またはユーザー名] で [Everyone] をクリックします。
- 11 [変更] を許可するチェックをつけて、[OK] をクリックします。



- 12 [OK] をクリックして、画面を閉じます。

以上で、コンピューター側の設定の完了です。ここでメモしたコンピューター名、ユーザー名、フォルダー名は、宛先の指定で必要になります。

Mac OS X 10.5/10.6/10.7/10.8/10.9 をお使いの場合

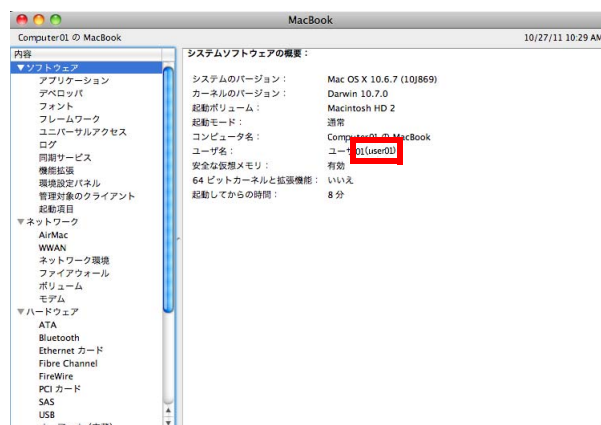
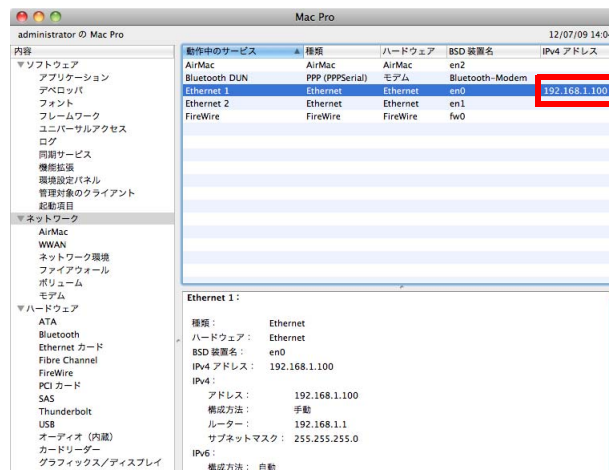
本機で読込んだ原稿データを、自分のコンピューターへ送信するための準備をします。

はじめに、読込んだ原稿データを受取る、専用の共有フォルダーを作成します。次に IP アドレスとユーザー名を確認して、共有を開始します。

ここでは、Mac OS X 10.6 を例に説明します。

✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。

- 1 任意の場所に新しいフォルダーを作り、名前を付けます。
 - フォルダー名は、宛先の指定が必要です。フォルダー名はメモしておいてください。
 - フォルダー名は、英数字をお使いください。
- 2 アップルメニューから [この Mac について] を選びます。
[この Mac について] の画面が表示されます。
- 3 [詳しい情報 ...] をクリックします。
 - Mac OS X 10.7/10.8/10.9 をお使いの場合は、[詳しい情報 ...] をクリックしたあと、[システムレポート ...] をクリックします。
- 4 IP アドレスとログインしているユーザー名を確認します。
 - IP アドレスとユーザー名は、フォルダーの共有設定と宛先の指定が必要です。どちらもメモしておいてください。



IP アドレスとユーザー名をメモしたら、ウィンドウを閉じます。

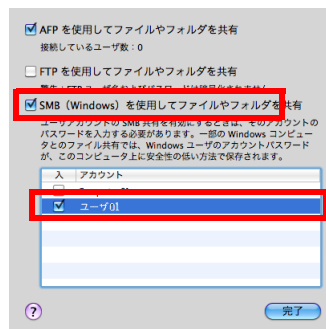
- 5 アップルメニューから [システム環境設定 ...] を選びます。
- 6 [システム環境設定 ...] 画面で [共有] をクリックします。

7 [ファイル共有] にチェックをつけます。



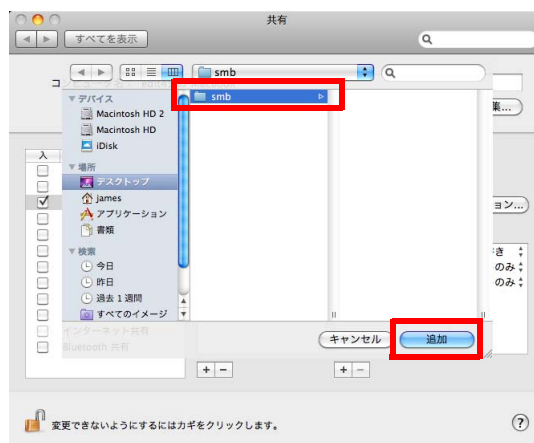
8 [オプション] をクリックして、[SMB (Windows) を使用してファイルやフォルダを共有] にチェックをつけてから、ログインしているユーザー名 (表示名) にチェックをつけます。

→ [認証] 画面が表示されたら、ログインしているユーザーのパスワードを入力して、[OK] をクリックします。



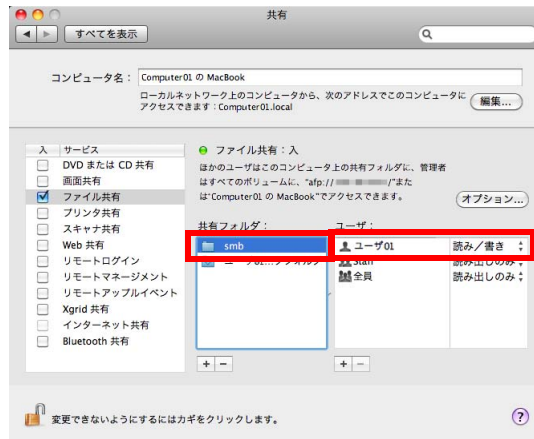
[完了] をクリックして、ウィンドウを閉じます。

9 [+] をクリックして表示されたウィンドウで、作成したフォルダを選んでから、[追加] をクリックします。



10 作成したフォルダーのユーザー名とアクセス権を確認します。

→ 冒頭でメモしたユーザー名が表示されていて、アクセス権が「読み / 書き」になっていることを確認します。



以上で、コンピューター側の設定の完了です。ここでメモした IP アドレス、ユーザー名、フォルダー名は、宛先の指定で必要になります。

3.2.3 本機側：お使いになるために必要な作業（管理者向け）

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。

ネットワークの設定を確認する

設定情報リストを印刷し、本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。

設定情報リストは、メイン画面の [レポート / ステータス] - [レポート] - [設定情報リスト] から印刷します。



参照

IP アドレスが割当てられていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、[すぐに使える簡単設定ガイド] の 5 章「本機の初期設定」をごらんください。

SMB 送信の使用環境を設定する

SMB 送信機能を有効にします（通常は、初期設定の状態でお使いいただけます）。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。



参考

Mac OS X 10.7/10.8/10.9 をお使いの場合は、次の設定が必要です。

- [SMB クライアント設定] の [認証] を [NTLM v1/v2] に設定する
- ダイレクトホスティング SMB サービスを有効にする
- 本機とコンピューターの日時（タイムゾーンを含む）を合わせる

宛先を登録する

送信先のコンピューターやサーバーは、あらかじめ本機に宛先として登録する必要があります。

SMB 宛先は、Web Connection でのみ登録できます。登録のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

3.2.4 必要に応じて行う作業

WINS サーバーを使う

ネットワーク上の機器との通信に WINS (Windows Internet Name Service) をお使いの場合は、WINS サーバーを登録します。

登録のしかたについて詳しくは、[ユーザズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

ダイレクトホスティング SMB サービスを使う

ネットワーク上の機器との通信にダイレクトホスティング SMB サービスをお使いの場合は、ダイレクトホスティング SMB サービスを有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。

IP アドレス (IPv4/IPv6) またはホスト名で、通信先を指定できます。IPv6 環境でお使いの場合は、必ず有効にする必要があります。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

LLMNR を使う

ネットワーク上の機器との通信に LLMNR (Link-local Multicast Name Resolution) をお使いの場合は、LLMNR を有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。

LLMNR は、DNS サーバーを持たないローカルネットワーク環境で、ネットワーク上の機器の名前を解決するためのプロトコルです。Windows Vista 以降で対応しています。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

DFS 環境で使う

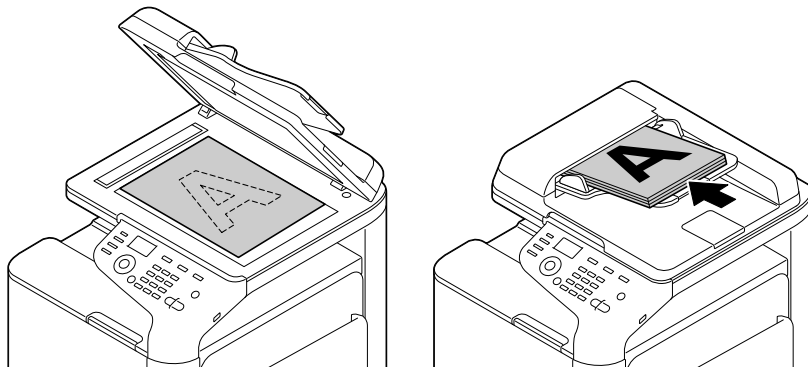
お使いの環境で DFS (Distributed File System) を導入している場合は、DFS を有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

3.3 送信のしかた

- ✓ あらかじめ SMB 宛先の登録が必要です。SMB 宛先は、Web Connection でのみ登録できます。登録のしかたについて詳しくは、[ユーザズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

- 1 原稿をセットします。



- 2 スキャンを押します。
- 3 送信先のコンピューターを指定します。
 - 宛先の指定のしかたについて詳しくは、1-5 ページをごらんください。
- 4 スキャン送信のオプション設定をします。
 - 本機で原稿を読み込む前に、読み込む原稿のサイズを設定する必要があります。原稿サイズを正しく設定しないと、画像が欠ける場合があります。原稿サイズの設定については、1-9 ページをごらんください。
 - オプション設定について詳しくは、以下の各項目をごらんください。

目的	参照先
ファイル形式や原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-9 ページ
原稿の内容に応じて画質や濃度を調整したい	1-11 ページ
原稿の読み込み方法を設定したい	1-12 ページ

- 5 スタートを押します。
 - カラーで読み込む場合は、スタート (カラー) を押します。モノクロで読み込む場合は、スタート (モノクロ) を押します。
 - 原稿の読み込み中にストップ/リセットを押すと、読み込みが停止され、ジョブをキャンセルするかどうかの確認画面が表示されます。送信を中止したい場合は、ジョブのキャンセルを行ってください。
 送信が開始されます。

3.4 応用機能の紹介

3.4.1 原稿データの保存先を E-mail で知らせる (URL 通知)

URL 通知について

スキャン送信または HDD 保存の終了後に、原稿データの保存先を記載した E-mail を、指定のメールアドレスに送信します。

プロジェクトメンバー間で、共有フォルダーや FTP サーバーなどをファイルの受渡しに使っているときなど、お知らせメールの宛先にメーリングリスト用のメールアドレスを指定することで、情報共有がしやすくなります。



参考

保存先のお知らせができるスキャン送信機能は、SMB 送信、FTP 送信、HDD 保存に限ります。

お使いになるために必要な作業 (管理者向け)

E-mail 環境を準備します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

操作の流れ

- 1 原稿をセットします。
- 2 スキャンを押します。
- 3 宛先を指定します。
- 4 メイン画面 (スキャンモード) で ▲/▼ を押して、[URL 通知] を選び、**選択**を押します。
- 5 [URL 通知 (ON/OFF)] を選び、**選択**を押します。
- 6 [ON] を選び、**選択**を押します。
- 7 [E-mail アドレス] を選び、**選択**を押します。
- 8 保存先をお知らせするメールアドレスを直接入力して指定するか、または短縮宛先 (E-mail 宛先) の中から選んで指定します。
 - 短縮宛先から指定する場合は、**登録宛先**を押します。
 - 通知できる宛先 (メールアドレス) は 1 件だけなので、メーリングリストを運用している場合は、メーリングリスト用のメールアドレスを宛先として登録すると便利です。
- 9 スタートを押します。
 - カラーで読み込む場合は、**スタート (カラー)**を押します。モノクロで読み込む場合は、**スタート (モノクロ)**を押します。
 - 原稿の読み込み中に**ストップ/リセット**を押すと、読み込みが停止され、ジョブをキャンセルするかどうかの確認画面が表示されます。送信を中止したい場合は、ジョブのキャンセルを行ってください。送信が開始されます。

4

FTP サーバーに送信する
(FTP 送信)

4 FTP サーバーに送信する (FTP 送信)

4.1 FTP 送信機能について

FTP 送信は、本機で読込んだ原稿データを、コンピューターで扱えるファイルに変換して、FTP サーバーにアップロードする機能です。

普段から、FTP サーバーを通じてファイルの受渡しをしている場合に便利です。

FTP サーバーにアップロードしたファイルは、コンピューターからダウンロードできます。

4.2 FTP 送信の準備（管理者向け）

4.2.1 準備の流れ

本機をネットワークに接続する

- LAN ケーブルの接続を確認する
 - ネットワーク設定を確認する
 - 本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。
-



FTP 送信の使用環境を準備する

- FTP 送信機能を有効にする
 - 通常は、初期設定の状態でお使いいただけます。
 - 送信する宛先を登録する
 - あらかじめ宛先の登録が必要です。
-



お使いの環境に合わせて設定する

- プロキシサーバーを使う
 - お使いのネットワーク環境でプロキシサーバーを経由する場合に設定します。
-



準備完了

4.2.2 お使いになるために必要な作業

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。

ネットワークの設定を確認する

設定情報リストを印刷し、本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。

設定情報リストは、メイン画面の [レポート / ステータス] - [レポート] - [設定情報リスト] から印刷します。



参照

IP アドレスが割当てられていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、[すぐに使える簡単設定ガイド] の 5 章「本機の初期設定」をごらんください。

FTP 送信の使用環境を確認する

FTP 送信機能を有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

宛先を登録する

送信先の FTP サーバーは、あらかじめ本機に宛先として登録する必要があります。

FTP 宛先は、Web Connection でのみ登録できます。登録のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

4.2.3 必要に応じて行う作業

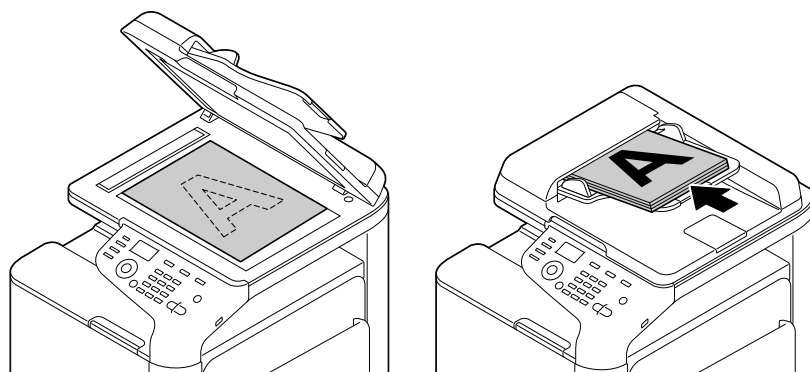
プロキシサーバーを使う

お使いのネットワーク環境でプロキシサーバーを経由する場合は、プロキシサーバーを登録します。

登録のしかたについて詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

4.3 送信のしかた

- 1 原稿をセットします。



- 2 スキャンを押します。
- 3 送信先のFTPサーバーを指定します。
→ 宛先の指定のしかたについて詳しくは、1-5 ページをごらんください。
- 4 スキャン送信のオプション設定をします。
→ 本機で原稿を読み込む前に、読み込む原稿のサイズを設定する必要があります。原稿サイズを正しく設定しないと、画像が欠ける場合があります。原稿サイズの設定については、1-9 ページをごらんください。
→ オプション設定について詳しくは、以下の各項目をごらんください。

目的	参照先
ファイル形式や原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-9 ページ
原稿の内容に応じて画質や濃度を調整したい	1-11 ページ
原稿の読み込み方法を設定したい	1-12 ページ

- 5 スタートを押します。
→ カラーで読み込む場合は、**スタート (カラー)** を押します。モノクロで読み込む場合は、**スタート (モノクロ)** を押します。
→ 原稿の読み込み中に**ストップ / リセット**を押すと、読み込みが停止され、ジョブをキャンセルするかどうかの確認画面が表示されます。送信を中止したい場合は、ジョブのキャンセルを行ってください。
送信が開始されます。

4.4 応用機能の紹介

4.4.1 原稿データの保存先を E-mail で知らせる (URL 通知)

URL 通知について

スキャン送信または HDD 保存の終了後に、原稿データの保存先を記載した E-mail を、指定のメールアドレスに送信します。

プロジェクトメンバー間で、共有フォルダーや FTP サーバーなどをファイルの受渡しに使っているときなど、お知らせメールの宛先にメーリングリスト用のメールアドレスを指定することで、情報共有がしやすくなります。



参考

保存先のお知らせができるスキャン送信機能は、SMB 送信、FTP 送信、HDD 保存に限ります。

お使いになるために必要な作業 (管理者向け)

E-mail 環境を準備します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

操作の流れ

- 1 原稿をセットします。
- 2 スキャンを押します。
- 3 宛先を指定します。
- 4 メイン画面 (スキャンモード) で ▲/▼ を押して、[URL 通知] を選び、**選択**を押します。
- 5 [URL 通知 (ON/OFF)] を選び、**選択**を押します。
- 6 [ON] を選び、**選択**を押します。
- 7 [E-mail アドレス] を選び、**選択**を押します。
- 8 保存先をお知らせするメールアドレスを直接入力して指定するか、または短縮宛先 (E-mail 宛先) の中から選んで指定します。
 - 短縮宛先から指定する場合は、**登録宛先**を押します。
 - 通知できる宛先 (メールアドレス) は 1 件だけなので、メーリングリストを運用している場合は、メーリングリスト用のメールアドレスを宛先として登録すると便利です。
- 9 スタートを押します。
 - カラーで読み込む場合は、**スタート (カラー)**を押します。モノクロで読み込む場合は、**スタート (モノクロ)**を押します。
 - 原稿の読み込み中に**ストップ/リセット**を押すと、読み込みが停止され、ジョブをキャンセルするかどうかの確認画面が表示されます。送信を中止したい場合は、ジョブのキャンセルを行ってください。送信が開始されます。

5

本機のハードディスクに保存する (HDD 保存)

5 本機のハードディスクに保存する (HDD 保存)

5.1 HDD 保存機能について

HDD 保存は、本機で読込んだ原稿データを、本機内蔵のハードディスクに保存する機能です。

ハードディスクに保存した原稿データは、コンピューターで Web ブラウザーを使ってダウンロードできます。

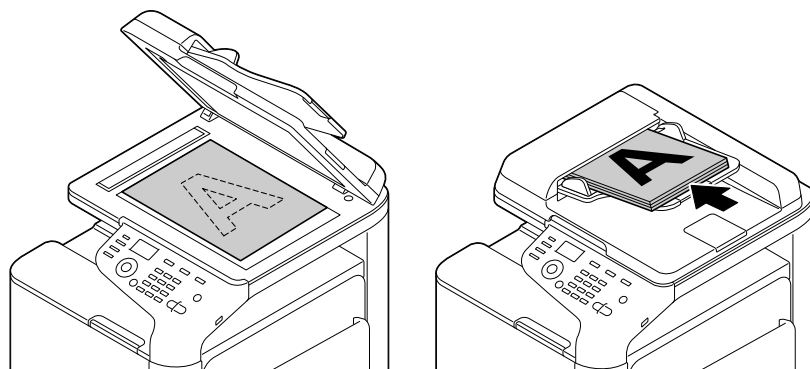


オプションのハードディスクを装着している場合に利用できます。

5.2 保存のしかた

✓ 最大 100 ファイルまで保存できます。

1 原稿をセットします。



2 スキャンを押します。

3 メイン画面（スキャンモード）で ▲/▼ を押して、スキャン送信のオプション設定をします。

- 本機で原稿を読み込む前に、読み込む原稿のサイズを設定する必要があります。原稿サイズを正しく設定しないと、画像が欠ける場合があります。原稿サイズの設定については、1-9 ページをごらんください。
- オプション設定について詳しくは、以下の各項目をごらんください。

目的	参照先
ファイル形式や原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-9 ページ
原稿の内容に応じて画質や濃度を調整したい	1-11 ページ
原稿の読み込み方法を設定したい	1-12 ページ

4 メイン画面（スキャンモード）で ▲/▼ を押して、[Scan to] を選び、**選択**を押します。

5 [Scan to HDD] を選び、**選択**を押します。

6 [文書保存] を選び、**選択**を押します。

- [文書削除] を選ぶと、ハードディスク内のファイルの削除ができます。

7 ユーザー認証を導入し、登録ユーザーでログインしている場合は、[保存先] を選び、**選択**を押します。

- ユーザー認証を導入していない、またはパブリックユーザーでログインしている場合は、手順 9 へ進みます。

8 必要に応じて、保存先を変更し、**選択**を押します。

- ユーザー認証を導入し、登録ユーザーでログインしている場合は、ファイルの保存先として [個人]（ハードディスクの個人用領域）を選択できます。

9 [文書名] を選び、**選択**を押します。

10 保存するファイル名を確認し、**スタート**を押します。

- カラーで読み込む場合は、**スタート（カラー）**を押します。モノクロで読み込む場合は、**スタート（モノクロ）**を押します。
- 原稿の読み込み中に**ストップ/リセット**を押すと、読み込みが停止され、ジョブをキャンセルするかどうかの確認画面が表示されます。送信を中止したい場合は、ジョブのキャンセルを行ってください。

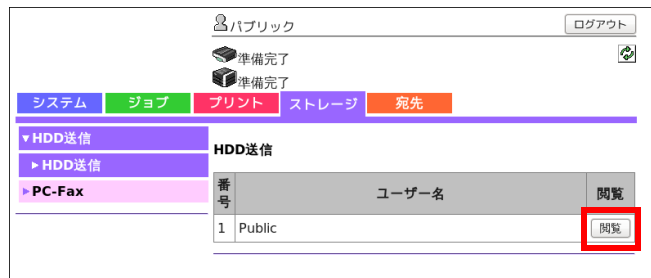
送信が開始されます。

5.3 ハードディスクに保存したファイルを活用する

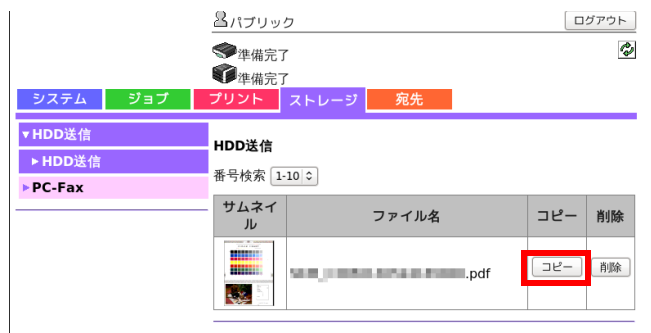
5.3.1 ハードディスクに保存したファイルをダウンロードする

Web Connection を使えば、ハードディスク内のファイルの確認やダウンロード、削除ができます。

- 1 Web ブラウザーを使って Web Connection へアクセスします。
 - WebブラウザのURLフィールドに、本機のIP アドレスを入力してキーボードのEnterを押します。
http:// <本機のIP アドレス> /
- 2 パブリックユーザーまたは登録ユーザーでログインします。
 - 管理者モードにログインすると、全てのユーザーのファイルの閲覧、削除ができます。
- 3 [ストレージ] タブの [HDD 送信] をクリックします。
ハードディスクにファイルを保存しているユーザーの一覧が表示されます。
- 4 ダウンロードしたいファイルが保存されているユーザーの欄の [閲覧] をクリックします。
 - 管理者モードにログインしている場合は、[削除] をクリックすると、選択したユーザーの全てのファイルを削除できます。



- 5 ダウンロードしたいファイルの欄の [コピー] をクリックします。
 - サムネイルまたはファイル名をクリックすると、選択したファイルの詳細情報が表示されます。
 - [削除] をクリックすると、選択したファイルを削除できます。



ファイルのダウンロードが開始されます。



参照

Web Connection の使い方について詳しくは、[ユーザーズガイド 応用機能編] の1章「Web Connection を使う」をごらんください。

5.4 応用機能の紹介

5.4.1 原稿データの保存先を E-mail で知らせる (URL 通知)

URL 通知について

スキャン送信または HDD 保存の終了後に、原稿データの保存先を記載した E-mail を、指定のメールアドレスに送信します。

プロジェクトメンバー間で、共有フォルダーや FTP サーバーなどをファイルの受渡しに使っているときなど、お知らせメールの宛先にメーリングリスト用のメールアドレスを指定することで、情報共有がしやすくなります。



参考

保存先のお知らせができるスキャン送信機能は、SMB 送信、FTP 送信、HDD 保存に限ります。

お使いになるために必要な作業 (管理者向け)

E-mail 環境を準備します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

操作の流れ

- 1 原稿をセットします。
 - 2 スキャンを押します。
 - 3 宛先を指定します。
 - 4 メイン画面 (スキャンモード) で ▲/▼ を押して、[URL 通知] を選び、**選択**を押します。
 - 5 [URL 通知 (ON/OFF)] を選び、**選択**を押します。
 - 6 [ON] を選び、**選択**を押します。
 - 7 [E-mail アドレス] を選び、**選択**を押します。
 - 8 保存先をお知らせするメールアドレスを直接入力して指定するか、または短縮宛先 (E-mail 宛先) の中から選んで指定します。
 - 短縮宛先から指定する場合は、**登録宛先**を押します。
 - 通知できる宛先 (メールアドレス) は 1 件だけなので、メーリングリストを運用している場合は、メーリングリスト用のメールアドレスを宛先として登録すると便利です。
 - 9 スタートを押します。
 - カラーで読み込む場合は、**スタート (カラー)**を押します。モノクロで読み込む場合は、**スタート (モノクロ)**を押します。
 - 原稿の読み込み中に**ストップ/リセット**を押すと、読み込みが停止され、ジョブをキャンセルするかどうかの確認画面が表示されます。送信を中止したい場合は、ジョブのキャンセルを行ってください。
- 送信が開始されます。



6

USB メモリーに保存する
(USB 保存)

6 USB メモリーに保存する (USB 保存)

6.1 USB メモリー保存機能について

USB メモリー保存は、本機で読込んだ原稿データを、本機に接続した USB メモリーに保存する機能です。

6.2 USB メモリー保存の準備

本機に接続できる USB メモリーの仕様は次のとおりです。

項目	対応
インターフェース	USB (1.0/2.0) インターフェース対応のもの
フォーマット形式	FAT32 形式でフォーマットされているもの
セキュリティ	暗号化やパスワードロックなどのセキュリティ機能が付加されていないか、または OFF にできるもの

本機に USB メモリーを接続するときは次の点にご注意ください。

- USB メモリーへの保存中や USB メモリー内のファイルの印刷中には、USB メモリーを抜かないでください。
- USB メモリー以外の USB 機器 (ハードディスク、USB ハブなど) は使用しないでください。
- 本機の起動中は USB メモリーの抜き差しを行わないでください。
- USB メモリーを差込んだ直後に抜かないでください。



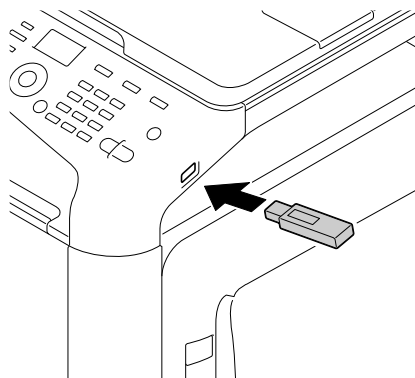
関連設定 (管理者向け)

USB メモリーへのファイルの保存を許可するかどうかを設定できます。

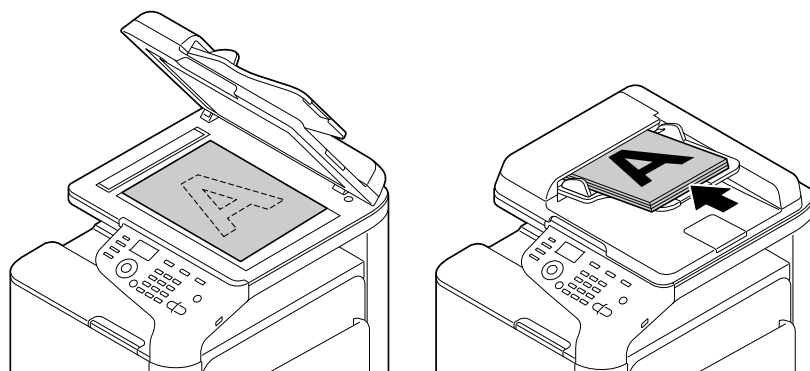
設定するには: [設定メニュー] - [管理者設定] - [環境設定] - [フォルダー設定] - [外部メモリー機能設定] - [外部メモリー保存禁止] (初期値: [OFF])

6.3 保存のしかた

- 1 本機に USB メモリーを接続します。



- 2 原稿をセットします。



- 3 スキャンを押します。

- 4 メイン画面（スキャンモード）で ▲/▼ を押して、スキャン送信のオプション設定をします。

- 本機で原稿を読み込む前に、読み込む原稿のサイズを設定する必要があります。原稿サイズを正しく設定しないと、画像が欠ける場合があります。原稿サイズの設定については、1-9 ページをごらんください。
- オプション設定について詳しくは、以下の各項目をごらんください。

目的	参照先
ファイル形式や原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-9 ページ
原稿の内容に応じて画質や濃度を調整したい	1-11 ページ
原稿の読み込み方法を設定したい	1-12 ページ

- 5 メイン画面（スキャンモード）で ▲/▼ を押して、[Scan to] を選び、**選択**を押します。

- 6 [Scan to USB メモリー] を選び、**選択**を押します。

- 7 保存するファイル名を確認し、**スタート**を押します。

- カラーで読み込む場合は、**スタート（カラー）**を押します。モノクロで読み込む場合は、**スタート（モノクロ）**を押します。
 - 原稿の読み込み中に**ストップ/リセット**を押すと、読み込みが停止され、ジョブをキャンセルするかどうかの確認画面が表示されます。送信を中止したい場合は、ジョブのキャンセルを行ってください。
- 送信が開始されます。

7

Web サービスで送信する
(WS スキャン)

7 Web サービスで送信する (WS スキャン)

7.1 WS スキャン機能について

WS スキャンは、面倒な環境設定をすることなく、コンピューターからスキャンの指示をして原稿データを取込んだり、本機でスキャンした原稿データをコンピューターに送信したりできます。

Vista 以降の Windows コンピューター (Windows Vista/7/8/8.1/Server 2008/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012R2) で対応しています。

7.2 WS スキャンの準備

7.2.1 準備の流れ

本機をネットワークに接続する

- LAN ケーブルの接続を確認する
- ネットワーク設定を確認する
 - 本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。



WS スキャン送信の使用環境を準備する

- Web サービス機能を有効にする
 - Web サービス機能の設定とスキャナー名を確認します。



コンピューターの使用環境を準備する

- スキャナードライバーをインストールする
 - Web サービスで使うスキャナードライバーをインストールします。



お使いの環境に合わせて設定する

- SSL で通信する
 - お使いの環境で Web サービスを使った通信を SSL で暗号化している場合に設定します。



準備完了

7.2.2 本機側：お使いになるために必要な作業（管理者向け）

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。

ネットワークの設定を確認する

設定情報リストを印刷し、本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。

設定情報リストは、メイン画面の [レポート / ステータス] - [レポート] - [設定情報リスト] から印刷します。



参照

IP アドレスが割当てられていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、[すぐに使える簡単設定ガイド] の 5 章「本機の初期設定」をごらんください。

WS スキャン送信の使用環境を設定する

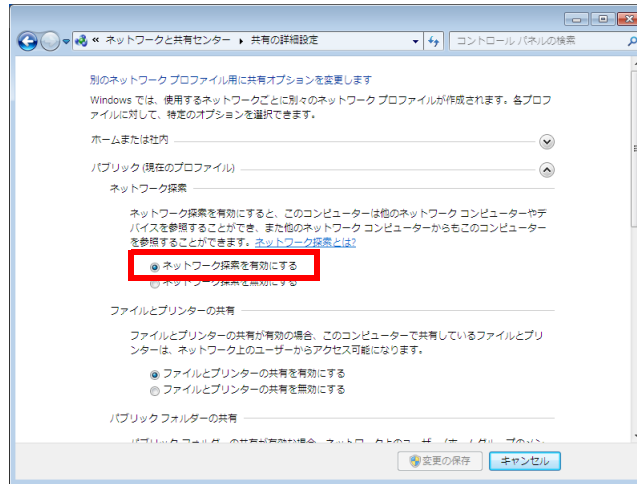
Web サービスによるスキャンを有効にします。あわせて、Web サービスを使って本機を検出するための設定や、スキャナーとしての本機の情報、本機との接続方法などを設定します。

設定のしかたについて詳しくは、[ユーザズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

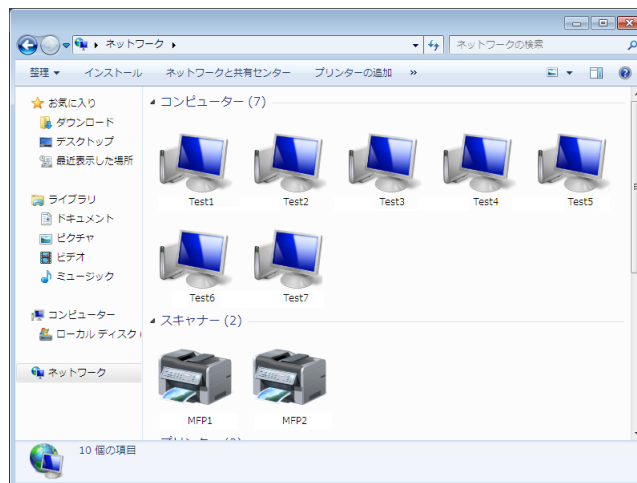
7.2.3 コンピューター側：お使いになるために必要な作業

コンピューターに、WS スキャンで使うスキャナードライバーをインストールします。インストール後、ドライバーに、スキャン送信後の動作を設定します。ここでは、Windows 7 を例に説明します。

インストールの前に、スタートメニューから [コントロールパネル] - [ネットワークとインターネット] - [ネットワークと共有センター] - [共有の詳細設定の変更] で、[ネットワーク探索] が有効に設定されていることを確認してください。



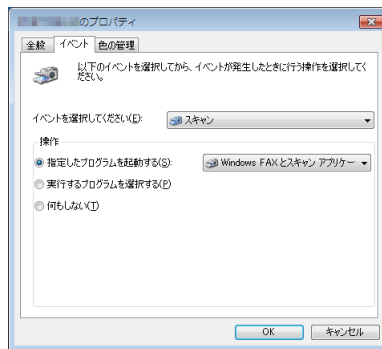
- 1 スタートメニューから [コンピューター] - [ネットワーク] をクリックします。ネットワークに接続されている機器が表示されます。



- 2 本機のスキャナーアイコンを右クリックして、[インストール] を選びます。
 - コンピューター側の設定によっては、UAC (User Account Control) 画面が表示されることがあります。内容を確認し、続行してください。
 - 本機の Web サービスの設定で、スキャン機能とプリンター機能の両方が有効になっている場合、本機はプリンターアイコンで表示されます。
 - Windows 8/8.1/Server 2012/Server 2012 R2 の場合は、ツールバーから [ネットワーク] - [デバイスとプリンターの追加] をクリックします。表示された画面で、本機のデバイス名を選び、[次へ] をクリックします。

ドライバーが自動的にインストールされます。確認画面が表示されたら [閉じる] をクリックします。
- 3 スタートメニューから [デバイスとプリンター] をクリックします。
- 4 本機のアイコンを右クリックして、[スキャン プロパティ] をクリックします。

- 5 [イベント] タブをクリックして、スキャン送信（WS スキャン）したときの、送信先のコンピューターの動作（原稿データの保存のしかた）を設定します。



設定	説明
[イベントを選択してください]	[スキャン] を選びます。
[操作]	<p>本機でスキャン送信したときの、送信先のコンピューターの動作を選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [指定したプログラムを起動する]：WS スキャンの宛先に選んだコンピューターにインストールされている、WS スキャンができるアプリケーションソフトウェアを起動して、読み込んだ原稿データをアプリケーションウィンドウに表示します。起動するアプリケーションは、リストから選びます。 ・ [実行するプログラムを選択する]：お使いのコンピューター（送信先のコンピューター）にインストールされている WS スキャンができるアプリケーションソフトウェアの一覧を、スキャン送信したコンピューターの画面に表示します。 ・ [何もしない]：アプリケーションソフトウェアを起動せず、以下のフォルダーにファイルとして保存します。 コンピューターのスタートメニュー - [ドキュメント] - [Scanned Documents]

- 6 必要に応じて、本機のアイコンを右クリックして [スキャン プロファイル] をクリックし、スキャン設定の初期値を変更します。

→ スキャン設定の内容について詳しくは、7-8 ページをごらんください。

- 7 本機の操作パネルで、メイン画面（スキャンモード）の [Scan to] - [Scan to DPWS] を選び、送信したいコンピューターが表示されることを確認します。

以上で、コンピューター側の設定の完了です。

7.2.4 本機側：必要に応じて行う作業（管理者向け）

SSL で通信する

お使いの環境で Web サービスを使った通信を SSL で暗号化している場合は、SSL 通信の設定をします。設定のしかたについて詳しくは、[ユーザズガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

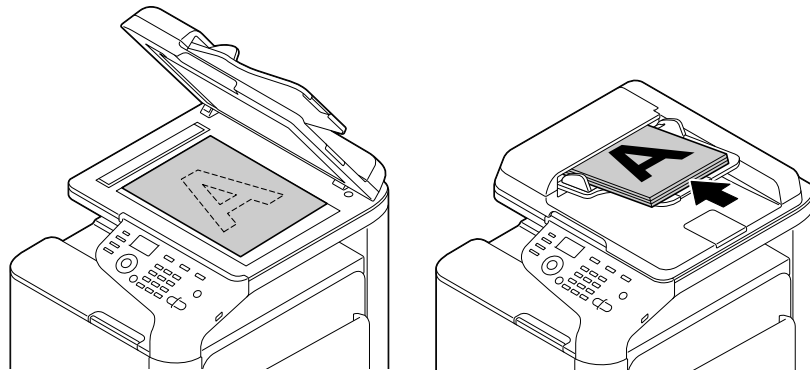


参考

Windows 8/8.1 をお使いの場合、Web サービスを使った通信を SSL で暗号化することはできません。

7.3 スキャン送信のしかた

- 1 原稿をセットします。

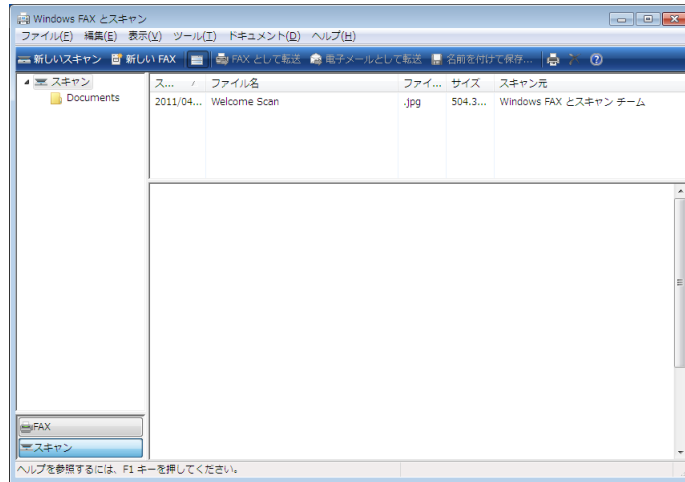


- 2 スキャンを押します。
- 3 メイン画面（スキャンモード）で ▲/▼ を押して、[Scan to] を選び、**選択**を押します。
- 4 [Scan to DPWS] を選び、**選択**を押します。
本機を Web サービスを使ったスキャナーとして登録している、ネットワーク上のコンピューターが、宛先として表示されます。
- 5 送信先のコンピューターを選び、**スタート**を押します。
→ 送信先のコンピューターを選び、**選択**を押すと、宛先の詳細を表示します。
送信が開始されます。
- 6 送信先に選んだコンピューターを操作して、原稿の取込みに起動するアプリケーションソフトウェアを操作したり、スキャン送信で保存したファイルを確認します。
→ 本機からスキャン送信した場合は、送信先のコンピューターのアプリケーションを起動して原稿データを取込むか、特定のフォルダーに保存するかの、2種類の保存のしかたがあります。詳しくは、7-5 ページをごらんください。

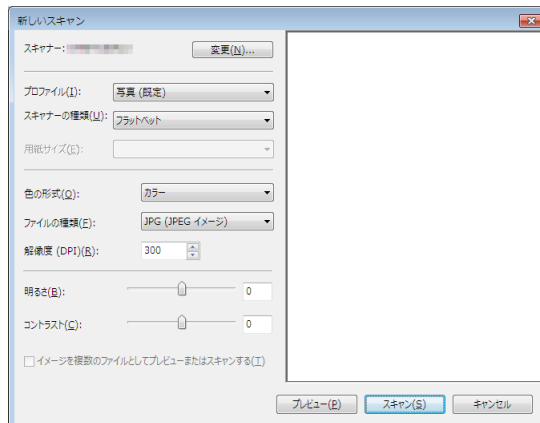
7.4 コンピューターから取込む

コンピューターのアプリケーションソフトウェアを通じて本機を操作して、読込んだ原稿データを取込みます。取込んだ原稿データは編集したり、そのままコンピューターに保存したりできます。ここでは、Windows 7 とアプリケーションソフトウェア [Windows FAX とスキャン] を使って説明します。

- 1 スタートメニューから [すべてのプログラム] - [Windows FAX とスキャン] をクリックします。



- 2 [新しいスキャン] をクリックします。
[新しいスキャン] ウィンドウが表示されます。
- 3 読込む原稿に合わせて、以下の各項目を任意で設定します。

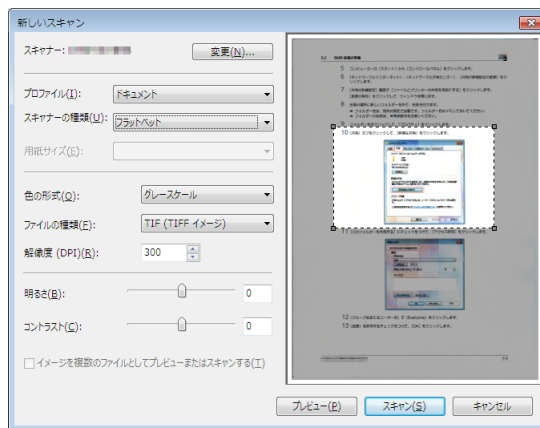


設定	説明
[スキャナー]	本機のスキャナー名を表示します。 他のスキャナーに切替えたいときは、[変更] をクリックします。
[プロファイル]	本機にセットする原稿に合わせて、プロファイルを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [写真]：写真が多い原稿を読込むときに選びます。 ・ [ドキュメント]：文字が多い原稿を読込むときに選びます。 ・ [最後に使用された設定]：前回読込んだ時の設定値を使って読込むときに選びます。 ・ [プロファイルの追加]：上記の選択肢以外に新たなプロファイルを作成して、選択肢を追加するときに選びます。[プロファイルの追加] を選ぶと、[新しいプロファイルの追加] ウィンドウを表示します。
[スキャナーの種類]	原稿をセットする場所を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [フラットベッド]：原稿を原稿ガラスにセットするときに選びます。[フラットベッド] を選ぶと、読み込み機能である [プレビュー] を使用できます。 ・ [フィーダー]：原稿を ADF にセットするときに選びます。

設定	説明
[用紙サイズ]	[スキャナーの種類] で [フィーダー] を選んだ場合に、読み込む原稿のサイズを指定します。
[色の形式]	原稿を読み込むカラーモードを、[カラー] または [グレースケール] から選びます。原稿の色に関わらず、選んだカラーモードで読み込みます。
[ファイルの種類]	保存するファイル形式を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> [BMP]：Windows に付属のソフト「ペイント」で採用する画像ファイルの保存形式です。保存するデータの圧縮機能を持たないため、JPEG や PNG 等に比べ、ファイルサイズは大きくなります。 [JPG]：デジタルカメラでよく使われているファイルの保存形式で、写真の保存に適したファイル形式です。JPEG は、1つのファイルに複数ページを保存できません。 [PNG]：ファイル生成時に圧縮しても品質が劣化しない、画像ファイルの保存形式です。古い Web ブラウザーでは、表示できないものもあるので、注意が必要です。 [TIF]：汎用度の高い画像形式の1つです。TIFF は、1つのファイルに複数ページを持てるマルチページに対応しています。 [XPS]：Windows Vista から採用されたファイル形式です。
[解像度 (DPI)]	原稿を読み込むときの解像度を指定します。
[明るさ]	原稿を読み込むときの明るさを指定します。明るさのレベルは、スライダーをドラッグするか、数値で指定します。
[コントラスト]	原稿を読み込むときのコントラストを指定します。コントラストのレベルは、スライダーをドラッグするか、数値で指定します。

4 [スキャン] をクリックします。

- [スキャナーの種類] で [フラットベッド] を選んだときは、ファイルとして保存する前に [プレビュー] をクリックして、読み込んだ原稿の画像を確認できます。必要に応じて、表示された画像をトリミングしたり、[明るさ] や [コントラスト]、[解像度 (DPI)] などを変更します。読み込んだ原稿を確認したら、[スキャン] をクリックします。



原稿が読み込まれ、[Windows FAX とスキャン] のアプリケーションウィンドウに表示されます。

8

TWAIN/WIA スキャンで画像
を取込む

8 TWAIN/WIA スキャンで画像を取込む

8.1 TWAIN/WIA スキャン機能について

コンピューターから、TWAIN/WIA に対応した各種アプリケーションを通じて本機を操作して、読込んだ原稿データを取込みます。

取込んだデータは編集したり、そのままコンピューターに保存したりできます。

8.2 TWAIN/WIA スキャンの準備

8.2.1 本機側：お使いになるために必要な作業（管理者向け）

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。

ネットワークの設定を確認する

設定情報リストを印刷し、本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。

設定情報リストは、メイン画面の [レポート/ステータス] - [レポート] - [設定情報リスト] から印刷します。



参照

IP アドレスが割当てられていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、[すぐに使える簡単設定ガイド] をごらんください。

8.2.2 コンピューター側：お使いになるために必要な作業

コンピューターの動作環境

Windows 環境の場合

項目	仕様
対応 OS	Windows XP/Vista/7/8/8.1/Server 2003/Server 2008 (32 bit) Windows XP/Vista/7/8/8.1/Server 2003/Server 2008/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2 (64 bit) * Service Pack などの最新情報に関しては、Readme を参照してください。
CPU	OS が推奨する環境以上
メモリー	OS が推奨するメモリー容量

Mac OS 環境の場合

項目	仕様
対応 OS	Mac OS X (10.3.9、10.4.x、10.5.x、10.6.x、10.7.x、10.8.x、10.9.x)
CPU	PowerPC、Intel プロセッサ
メモリー	OS が推奨するメモリー容量

スキャナードライバーのインストール (Windows 環境の場合)

本機に付属の CD-ROM からコンピューターにスキャナードライバーをインストールします。

- ✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。
 - ✓ CD-ROM は Driver & Utilities CD-ROM を使います。
- 1 スキャナードライバーの CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れます。
 - インストーラーが起動するのを確認し、手順 2 へ進みます。
 - インストーラーが起動しない場合は、CD-ROM 内のスキャナードライバーのフォルダーを開いて [AutoRun.exe] をダブルクリックし、手順 3 へ進みます。
 - [ユーザー アカウント制御] に関する画面が表示されるときは、[続行] または [はい] をクリックします。
 - 2 [スキャナー] をクリックします。
スキャナードライバーのインストーラーが起動します。
 - 3 [次へ] をクリックします。
 - 4 使用許諾契約書を確認してから [使用許諾契約の全条項に同意します] を選択し、[次へ] をクリックします。
 - 5 デバイス一覧から本機を選択して、[OK] をクリックします。
 - 本機がリストに検出されない場合は、[更新] をクリックするか、または [IP アドレスを指定] を選択し、本機の IP アドレスを入力してください。
 - 6 [完了] をクリックします。
以上で、スキャナードライバーのインストールの完了です。

スキャナードライバーのインストール (Mac OS 環境の場合)

本機に付属の CD-ROM からコンピューターにスキャナードライバーをインストールします。

- ✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。
 - ✓ CD-ROM は Driver & Utilities CD-ROM を使います。
- 1 スキャナードライバーの CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れます。
 - 2 デスクトップに表示される CD アイコンをダブルクリックし、[Drivers] - [Mac] - [Scanner] フォルダー内の pkg ファイルをダブルクリックします。
スキャナードライバーのインストーラーが起動します。
 - 3 [続ける] をクリックします。
 - 4 [続ける] をクリックします。
 - 5 使用許諾契約書を確認し、[続ける] をクリックします。
 - 6 [同意する] をクリックします。
 - 7 標準インストール画面または簡易インストール画面で [インストール] をクリックします。
 - 認証画面が表示された場合は、コンピューターの管理者の名前とパスワードを入力してください。
 - 8 コンピューターの管理者の名前とパスワードを入力し、[OK] または [ソフトウェアのインストール] をクリックします。
 - 9 [閉じる] をクリックします。
以上で、スキャナードライバーのインストールの完了です。

ネットワークユーティリティーの設定

ネットワークユーティリティーは、ネットワークに接続されているスキャナーを使用するときの IP アドレスを設定するためのユーティリティーです。ネットワークユーティリティーは、スキャナードライバーと同時にコンピューターにインストールされます。

スキャナードライバーをインストールするときに IP アドレスを設定しなかった場合や、スキャナードライバーをインストールしたあとに本機の IP アドレスが変更になった場合は、ネットワークユーティリティーで IP アドレスを設定します。

- 1 ネットワークユーティリティーを起動します。
 - Windows 環境でお使いの場合、スタートメニューから [すべてのプログラム] (または [プログラム]) - [KONICA MINOLTA] - 本機のモデル名 - [スキャナー] をクリックし、ネットワークユーティリティーを起動します。
 - Mac OS 環境でお使いの場合、[Macintosh HD] (システムのハードディスク) の [ライブラリ] - [Applications Support] - [KONICA MINOLTA] を開き、本機のフォルダー内のネットワークユーティリティーを起動します。
 - TWAIN スキャンを利用する場合に IP アドレスの設定が必要なときは、アプリケーションソフトウェアからスキャナードライバーを起動しようとするとき、ネットワークユーティリティーが起動します。
- 2 デバイス一覧から本機を選択して、[OK] をクリックします。
 - 本機がリストに検出されない場合は、[更新] をクリックするか、または [IP アドレスを指定] を選択し、本機の IP アドレスを入力してください。

8.3 TWAIN スキャンのしかた

コンピュータの操作でスキャンを実行します。スキャンした画像データは、TWAIN ドライバーに対応したアプリケーションソフトウェアのウィンドウに表示されます。

- 1 本機に原稿をセットします。
原稿をセットしたら、TWAIN スキャンをするコンピュータの前に移動します。
- 2 スキャンデータを取込む TWAIN 対応アプリケーションを起動します。
- 3 アプリケーションソフトウェアの設定に従って、スキャナードライバーを起動します。
→ IP アドレスが設定されていないためスキャナーを使用できない旨のメッセージが表示された場合は、ネットワークユーティリティで IP アドレスの設定が必要です。詳しくは、8-5 ページをご覧ください。
- 4 原稿ガラスに原稿をセットした場合は、[プレスキャン] をクリックし、プレビュー領域に原稿を取込みます。
→ ADF に原稿をセットした場合は、[プレスキャン] は利用できません。手順 5 へ進みます。
- 5 スキャンの設定を行います。
→ [簡易モード] の設定項目

設定	説明
[スキャン目的]	原稿種類を選びます。
[スキャンタイプ]	スキャンする画像の形式を指定します。フルカラー、グレー、白黒から選びます。
[解像度]	原稿を読み込む解像度を選びます。
[自動色調整]	自動的に色を補正するかしないか設定します。
[自動傾き補正]	自動的に原稿の傾きを補正するかしないか設定します。
[給紙方法]	原稿ガラス（フラットベッド）と ADF のどちらに原稿をセットするかを選びます。ADF からスキャンするときは、片面か両面かを選びます。
[原稿サイズ]	原稿サイズを指定します。
[回転]	スキャンする画像の向きを設定します。 [裏面反転] にチェックをすると、裏面を 180° 回転してスキャンします（この設定は、[給紙方法] が [ADF（両面）] のときに設定可能です）。
[画像サイズ]	スキャン画像のデータサイズを表示します。
クリアアイコン	プレビュー画像を消去します。
[色調整前] / [色調整後] (RGB)	プレビュー画像上にカーソルを移動すると、カーソル位置の補正前後の色調が表示されます。
[幅] / [高さ]	プレビュー領域上の選択範囲の幅と 高さを表示します。

→ [詳細モード] の設定項目

設定	説明
[給紙方法]	原稿ガラス（フラットベッド）と ADF のどちらに原稿をセットするかを選びます。ADF からスキャンするときは、片面か両面かを選びます。
[原稿サイズ]	原稿サイズを指定します。
[スキャンタイプ]	スキャンする画像の形式を指定します。フルカラー、グレー、白黒から選びます。
[解像度]	原稿を読み込む解像度を選びます。
[スケール]	拡大 / 縮小率を設定します。 [解像度] が 1200dpi × 1200dpi 以上の場合は、サポート対象外となります。

設定	説明
[スキャンモード]	スキャンモードを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [オート]: プレビュー画像に対して、明るい画像は暗く、暗い画像は明るくなるように自動調整します。 ・ [マニュアル]: 明るさ / コントラスト、フィルター、カーブ、レベル、カラーバランス、色相 / 彩度の各タブで、各種設定を手動で調整します。
[画像サイズ]	スキャン画像のデータサイズを表示します。
[回転]	スキャンする画像の向きを設定します。 [裏面反転] にチェックをすると、裏面を 180° 回転してスキャンします (この設定は、[給紙方法] が [ADF (両面)] のときに設定可能です)。
[自動傾き補正]	自動的に原稿の傾きを補正するかしないか設定します。
オートクロップアイコン	プレビュー領域に表示された原稿の位置を自動的に検出し、原稿にフィットしたクロップ枠を引きます。
ズームプレスキャンアイコン	プレビュー領域上の選択範囲の再読み込みを行い、選択範囲をプレビュー領域全体に表示します。
鏡像アイコン	プレビュー画像の左右を反転します。
階調反転アイコン	プレビュー画像の色を反転します。
クリアアイコン	プレビュー画像を消去します。
[色調整前] / [色調整後] (RGB)	プレビュー画像上にカーソルを移動すると、カーソル位置の補正前後の色調が表示されます。
[幅] / [高さ]	プレビュー領域上の選択範囲の幅と 高さを表示します。
[保存]	現在の設定内容を設定ファイル (dat ファイル) として保存します。
[読み込み]	保存した設定ファイル (dat ファイル) を読み込みます。
[デフォルト]	すべての設定を初期値に戻します。

6 [スキャン] をクリックします。

アプリケーションソフトウェアに画像が取込まれます。

8.4 WIA スキャンのしかた

コンピューターの操作でスキャンを実行します。スキャンした画像データは、WIA ドライバーに対応したアプリケーションソフトウェアのウィンドウに表示されます。

- 1 本機に原稿をセットします。
原稿をセットしたら、WIA スキャンをするコンピューターの前に移動します。
- 2 スキャンデータを取込む WIA 対応アプリケーションを起動します。
- 3 アプリケーションソフトウェアの設定に従って、スキャナードライバーを起動します。
- 4 スキャンの設定を行い、[プレビュー] をクリックします。

設定	説明
[給紙方法]	原稿ガラス（フラットベッド）とADF（ドキュメントフィーダー）のどちらに原稿をセットするかを選びます。
[カラー画像]	カラーでスキャンするときに選びます。
[グレースケール画像]	グレースケールでスキャンするときに選びます。
[白黒画像またはテキスト]	白黒でスキャンするときに選びます。
[カスタム設定]	詳細プロパティ画面の設定値を使うときに選びます。
[スキャンした画像の品質の調整]	詳細プロパティ画面で明るさ、コントラスト、解像度、画像の種類を設定します。 詳細プロパティ画面で設定した内容がカスタム設定になります。
[ページサイズ]	原稿サイズを指定します。 [給紙方法] で [ドキュメントフィーダー] を選んだ場合に有効です。

- 5 プレビュー画像を確認しながら、スキャン領域の指定や色調の補正を行います。
- 6 [スキャン] をクリックします。
アプリケーションソフトウェアに画像が取込まれます。

8.5 スキャナードライバーのアンインストール

Windows 環境の場合

インストーラーを使ってインストールした場合は、プリンタードライバーの削除機能が組み込まれています。

✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。

- 1 削除プログラムを起動します。
 - スタートメニューから [すべてのプログラム] (または [プログラム]) - [KONICA MINOLTA] - 本機のモデル名 - [スキャナー] - [アンインストール] をクリックします。
 - Windows 8.1 の場合は、スタート画面で [⓪] をクリックし、[コントロール パネル] - [プログラム] の [プログラムのアンインストール] をクリックします。一覧から、削除したいドライバーをダブルクリックします。
 - Windows 8 の場合は、スタート画面を右クリックし、[すべてのアプリ] - [コントロール パネル] - [プログラム] の [プログラムのアンインストール] をクリックします。一覧から、削除したいドライバーをダブルクリックします。
 - Windows Server 2012 の場合は、スタート画面で [コントロール パネル] - [プログラム] の [プログラムのアンインストール] をクリックします。一覧から、削除したいドライバーをダブルクリックします。
- 2 以降は、表示される画面に従って操作してください。
- 3 再起動する画面が表示されたら [OK] をクリックし、再起動します。

以上で、スキャナードライバーの削除の完了です。

Mac OS 環境の場合

- 1 [Macintosh HD] (システムのハードディスク) の [ライブラリ] - [Applications Support] - [KONICA MINOLTA] を開き、本機のフォルダー内の削除プログラムをダブルクリックします。
- 2 [アンインストール] をクリックします。
- 3 以降は、表示される画面に従って操作してください。
- 4 アンインストール完了のメッセージが表示されたら [OK] をクリックします。

以上で、スキャナードライバーの削除の完了です。

9

よく使う宛先を登録する（短縮宛先）

9 よく使う宛先を登録する（短縮宛先）

短縮宛先について

よく送信する宛先を本機に登録することで、送信のたびに宛先を入力する手間が省けます。本機に登録した宛先を、短縮宛先と呼びます。

短縮宛先は、250 件まで登録できます。登録できる宛先の種類は、送信のしかたによってメールアドレスやコンピューター名などになります。



関連設定（管理者向け）

ユーザーに対して、宛先の登録や変更を許可するかどうかを選べます。

設定するには：[設定メニュー] - [管理者設定] - [環境設定] - [ユーザー操作禁止設定] - [登録宛先変更]（初期値：[許可]）



参照

短縮宛先は Web Connection でも登録できます。また、SMB 宛先、FTP 宛先は、Web Connection でのみ登録できます。詳しくは、[ユーザースガイド 応用機能編] の 2 章「本機の使用環境を設定する」をごらんください。

E-mail 宛先を登録する

宛先とするメールアドレスを登録します。

- 1 [設定メニュー] - [宛先登録] - [E-mail] を選び、**選択**を押します。
- 2 登録する短縮ダイヤル番号をテンキーで入力し、**選択**を押します。
- 3 [登録名] を入力し（72 文字以内）、**選択**を押します。
- 4 [常用]（よく送信する宛先）に設定する場合は [はい] を選び、**選択**を押します。
- 5 宛先とするメールアドレスを入力し（320 文字以内）、**選択**を押します。



参考

登録済みの宛先の短縮ダイヤル番号を入力して**選択**を押すと、宛先の編集または削除ができます。

- 登録した宛先を編集する場合は、[編集] を選び、登録内容を編集します。
- 登録した宛先を削除する場合は、[削除] を選びます。

10

索引

10 索引

E

E-mail 送信	
送信のしかた	2-6
概要	2-2
準備	2-3

F

From	1-13
------------	------

FTP 送信

URL 通知	4-6
概要	4-2
準備	4-3
送信のしかた	4-5

H

HDD 保存

URL 通知	5-5
概要	5-2
ダウンロード	5-4
保存のしかた	5-3

S

SMB 送信

URL 通知	3-19
概要	3-2
準備	3-3
送信のしかた	3-18

T

TWAIN

概要	8-2
準備	8-3
スキャンのしかた	8-6

U

USB メモリー保存

概要	6-2
準備	6-2
保存のしかた	6-3

W

WIA

概要	8-2
準備	8-3
スキャンのしかた	8-8

WS スキャン

概要	7-2
コンピューターから取込む	7-8
準備	7-3
送信のしかた	7-7

あ行

宛先登録	9-2
E-mail 送信	9-2
宛先の指定	1-5
LDAP	1-8
アドレス帳	1-7
解除	1-8
グループ宛先	1-6

常用	1-5
短縮宛先	1-6
直接入力	1-5
プログラム	1-7

か行

解像度	1-11
片面 / 両面	1-12
原稿種類	1-11
件名	1-13

さ行

下地調整	1-11
シャープネス	1-12
スキャナードライバー	
アンインストール	8-9
インストール (Mac OS)	8-4
インストール (Windows)	8-4

スキャン送信

概要	1-2
送信のしかた	1-3

スタートキーの設定	1-10
-----------------	------

設定	1-9
----------	-----

た行

短縮宛先	9-2
------------	-----

な行

濃度	1-11
----------	------

は行

ファイル形式	1-9
本文	1-13

や行

読み込みサイズ	1-9
読み込み設定	1-9

ら行

連続読み込み	1-12
--------------	------



KONICA MINOLTA

国内総販売元
コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
製造元
コニカミノルタ株式会社